

## 平成16年3月の地震活動及び火山活動について

### [地震活動]

特に目立った地震活動はありませんでした。全国で震度1以上が観測された地震の回数は96回、日本及びその周辺におけるM4以上の地震の回数は73回でした。

国土地理院によるGPS観測結果<sup>(注1)</sup>では、東海地域及びその周辺においては、2001年頃からの長期的な地殻変動が継続しています。その他の地域では、特段の変化はありませんでした。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また世界の主な地震は別紙2のとおりです。

### [火山活動]

噴火したのは三宅島、桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島の4火山でした。三宅島については、火口カメラ設置工事の際に山頂火口付近で微弱な降灰が観測されたもので、このような現象はこれまでも発生していたと見られます。他の3火山は、いずれも従来からの山頂噴火が継続しました。

三宅島の火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、長期的には減少傾向にありますが、最近1年あまりは日量3千~1万トン程度で概ね横ばい傾向となっています。

阿蘇山では規模の大きい土砂噴出は発生しませんでした。浅部の熱的な活動が依然活発です。

霧島山では26日に火山性微動が観測され、その直後に噴気活動が活発になりました。

口永良部島では月の前半に微小な地震が多発し、下旬には微動が時々発生しました。

伊豆大島では2日に島内北西部で一時的に地震が多発しました。

注1：国土地理院のGPSによる地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成16年2月~平成16年3月の地殻変動について」を参照ください。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/index.html>

注2：地震活動および火山活動の詳細については、地震火山月報(防災編)3月号(4月20日にHP掲載予定)をご覧ください。

注3：平成16年4月の地震活動及び火山活動については平成16年5月10日に発表の予定です。

2004年3月の地震活動<sup>注1)</sup>

番号	月日時分	震央地名	緯度 経度 深さ M	最大震度	備考/コメント
1	03月11日11時34分	茨城県沖	36° 19.1N 141° 00.6E 48km M:5.3	4	太平洋プレートと陸のプレートとの境界の地震。
2	03月27日00時20分	釧路沖	41° 45.3N 144° 22.5E 37km M:5.8	3	2003年9月26日の十勝沖地震(M8.0)の余震

その他の活動<sup>注2)</sup>

月日時分	震央地名	緯度 経度 深さ M	最大震度	備考/コメント
04月04日08時02分	茨城県中	36° 23.2N 141° 09.4E 49km M:5.8	3	太平洋プレートと陸のプレートとの境界で発生した地震。北東約15kmで、2004年3月11日、M5.3の地震が発生している。
04月06日07時51分	徳島県南部	33° 53.7N 134° 20.5E 7km M:4.0	3	陸域の浅い地震。2000年6月23日にも、今回の付近でM4.1。

注1)「主な地震活動」とは 陸域で4.0以上かつ震度3以上地震、 海域でM5.0以上かつ震度3の地震、  
M6.0以上の地震、 以前に取り上げた地震活動で、活動が継続しているもの。

注2)「その他の活動」とは 主な地震活動の基準に該当する地震で2004年4月に発生したものを。

### ・地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

2004年3月22日に気象庁において第217回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表しました。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はありません。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖直下では通常より活動レベルの低い状態が続いています。その他の地域では、三河湾周辺で浅い地震の活動レベルがやや高いほかは、概ね平常レベルです。

プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる東海地域およびその周辺で見られる長期的な地殻変動は依然継続しています。

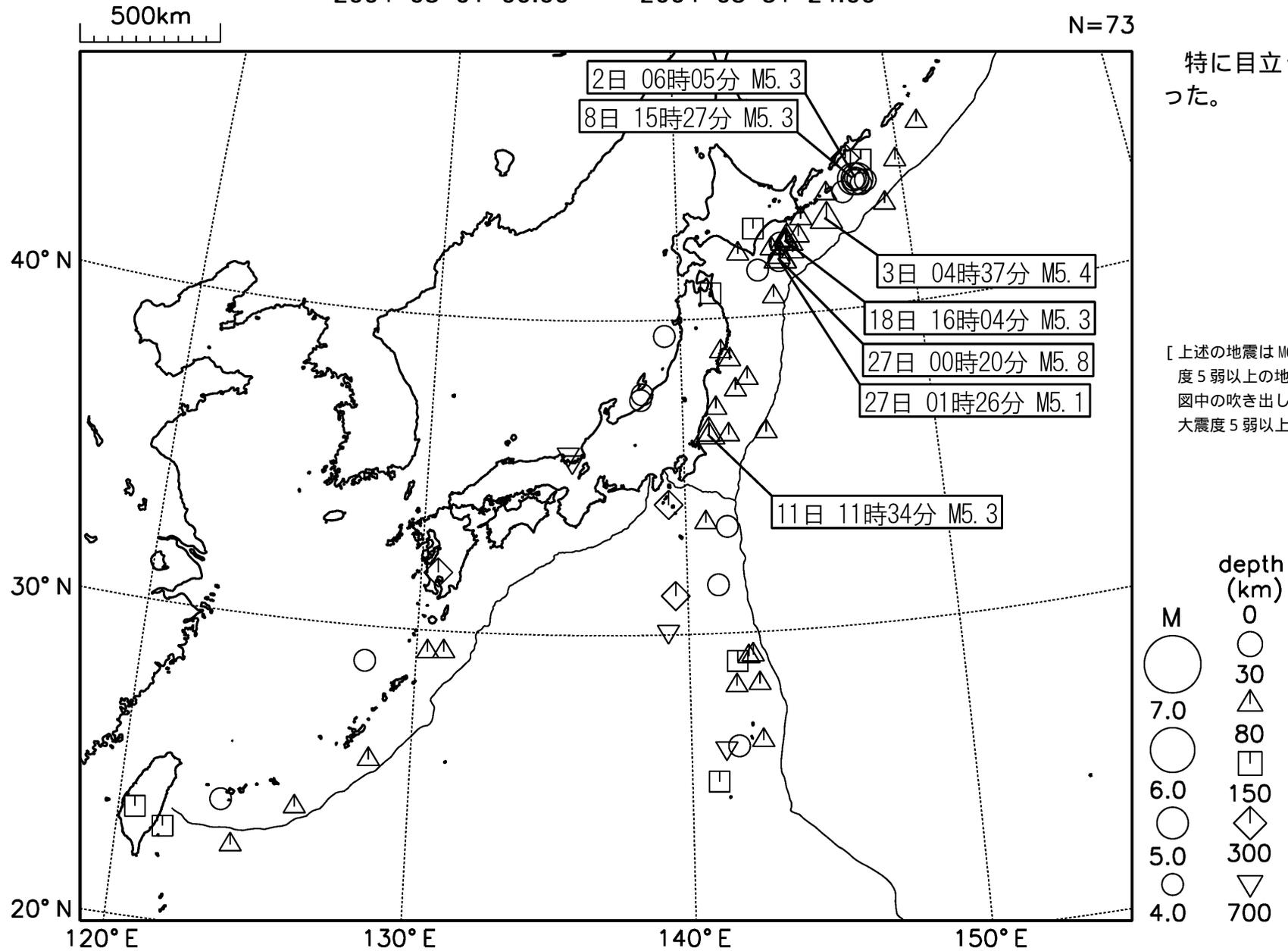
# 2004年3月の全国の地震活動（マグニチュード4.0以上）

2004 03 01 00:00 -- 2004 03 31 24:00

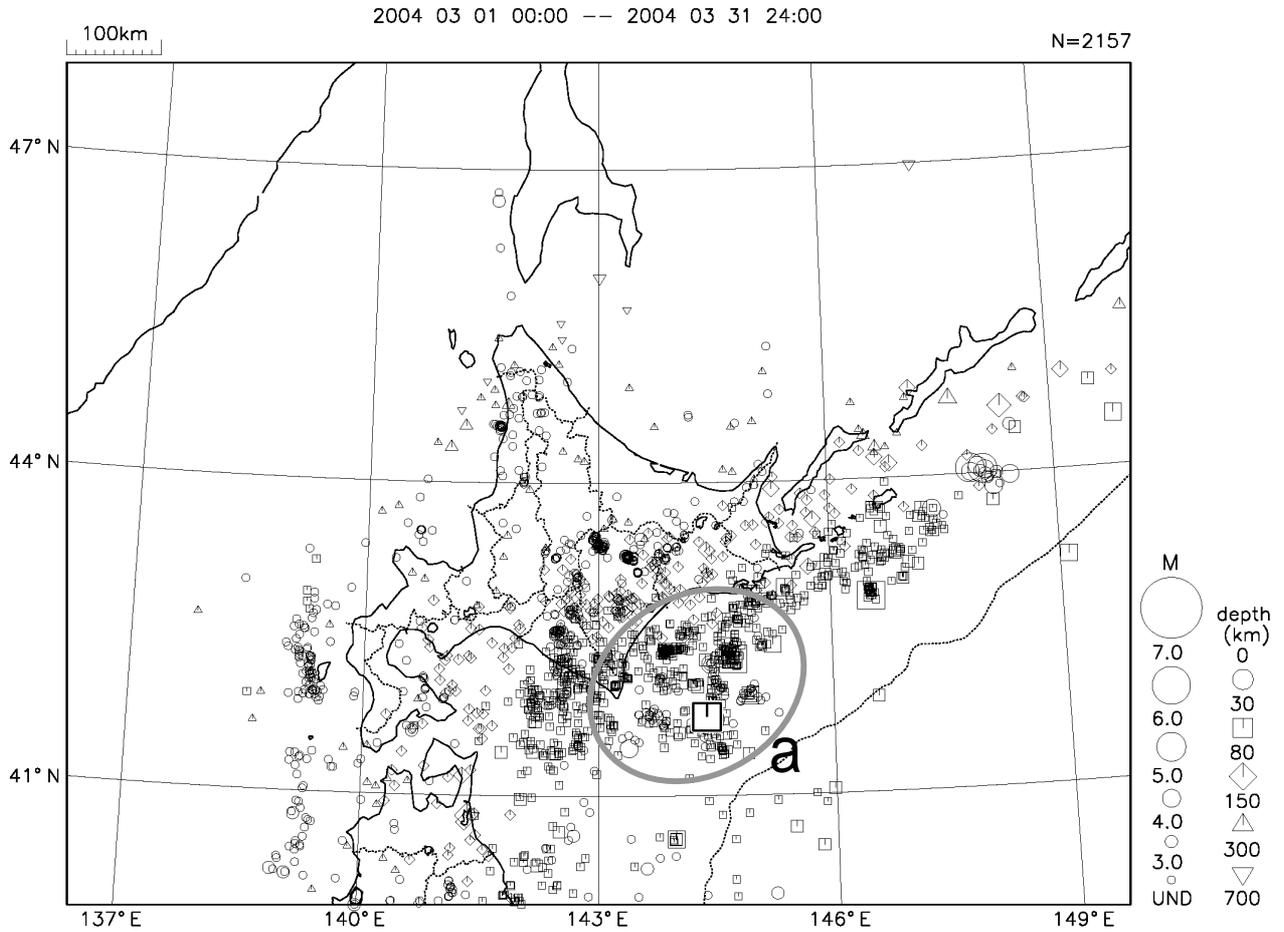
N=73

特に目立った活動はなかった。

[ 上述の地震は M6.0 以上、または最大震度 5 弱以上の地震。  
 図中の吹き出しは M5.0 以上、または最大震度 5 弱以上の地震。 ]



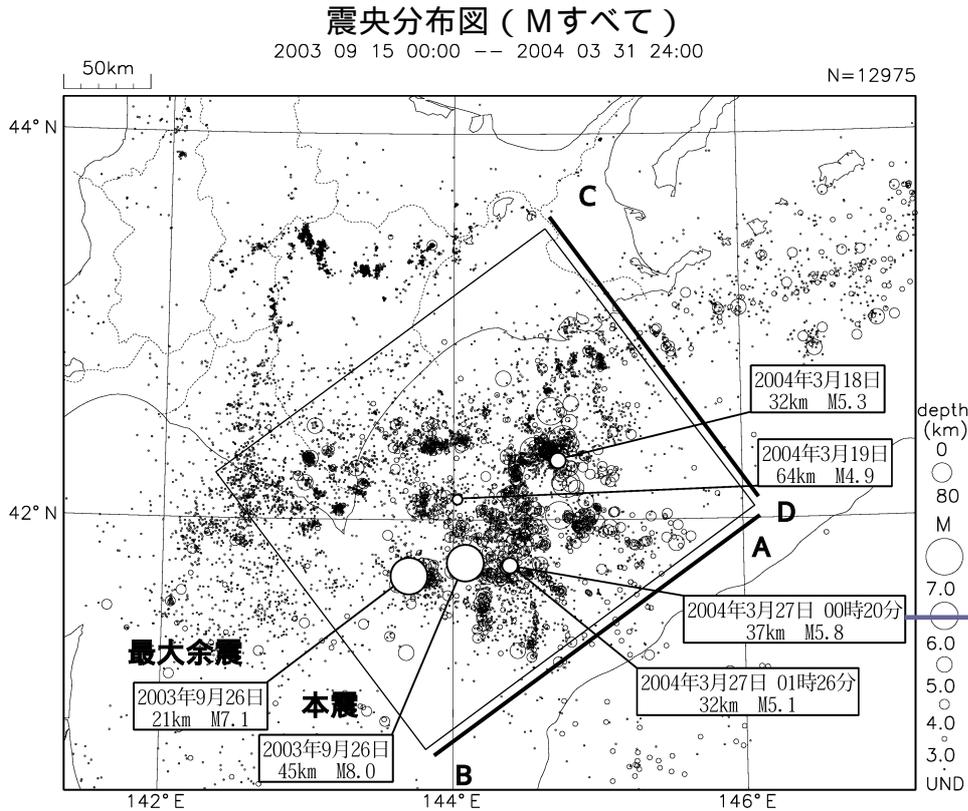
# 北海道地方



a) 2003年9月26日に発生した十勝沖地震 (M8.0) の余震活動は、順調に減衰している。なお、余震域で3月27日にM5.8 (最大震度3) の地震があった。

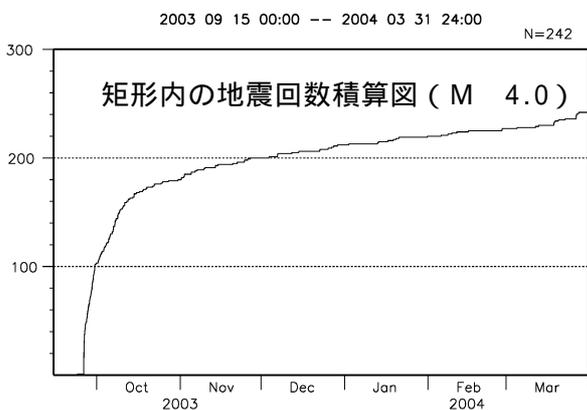
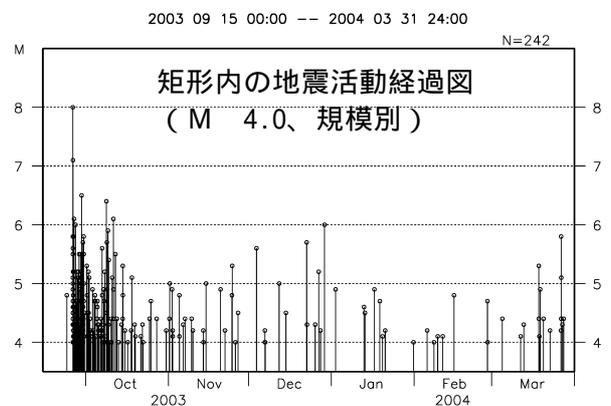
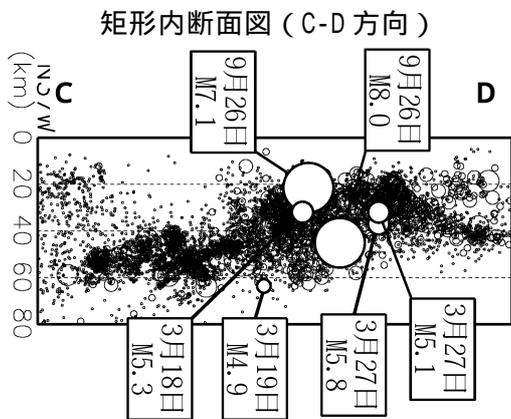
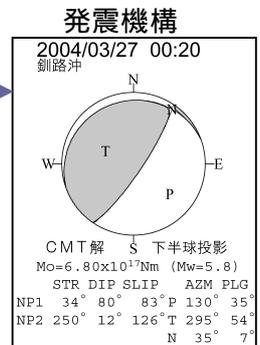
[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]

# 十勝沖地震（2003年9月26日、M8.0）の余震活動

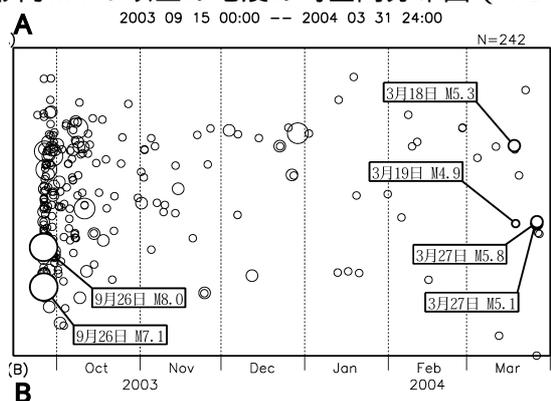


2003年9月26日に発生した十勝沖地震(M8.0)の余震活動は、順調に減衰している。3月18日にM5.3(最大震度2)、19日にM4.9(最大震度3)、27日にM5.8(最大震度3)とM5.1(最大震度1)の余震があった。

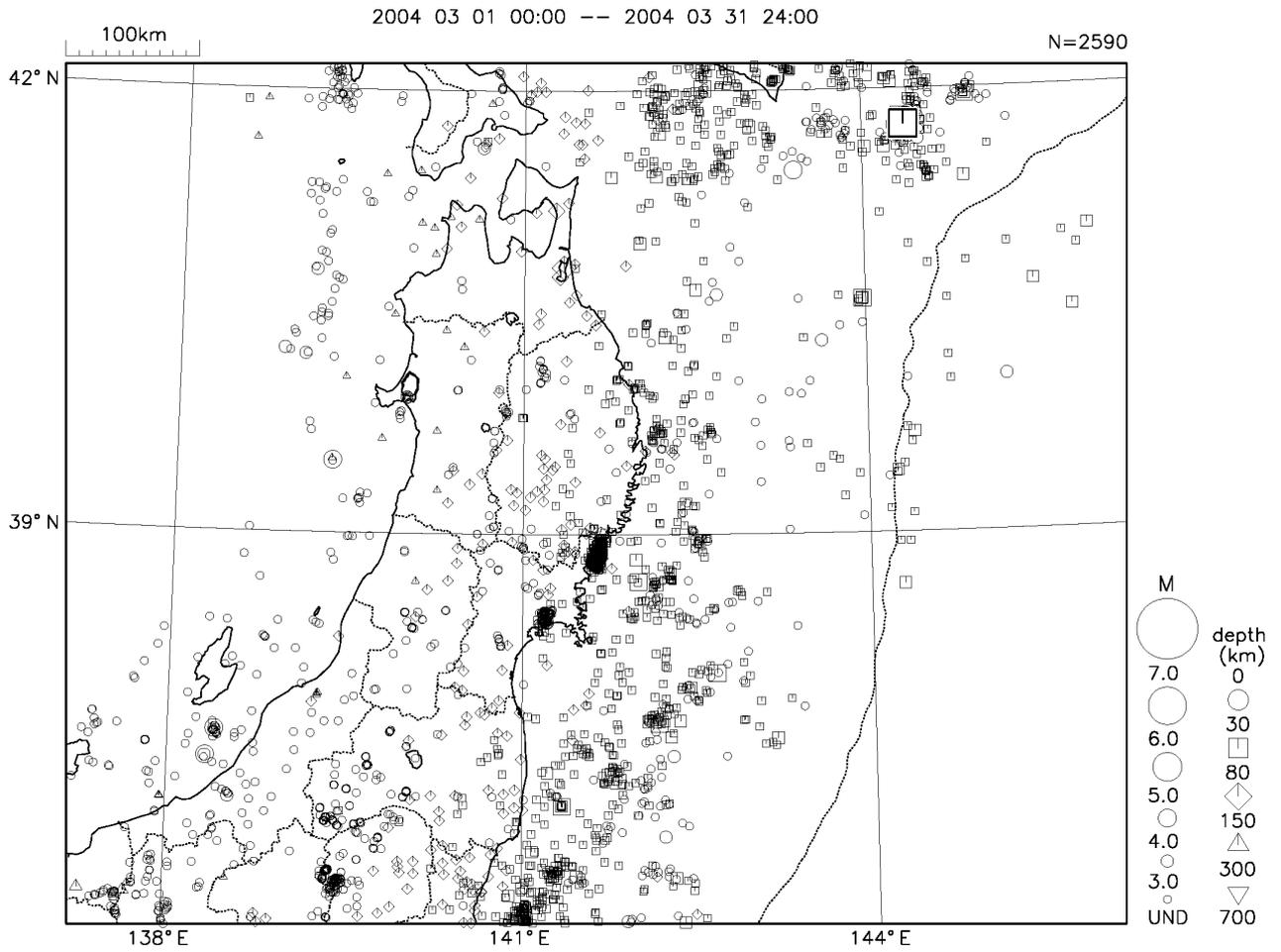
M5.8の地震は、本震付近で発生しており、この発震機構は、本震とほぼ同じ北西-南東に圧力軸を持つ逆断層型であった。



矩形内M4.0以上の地震の時空間分布図（A-B方向）



# 東北地方

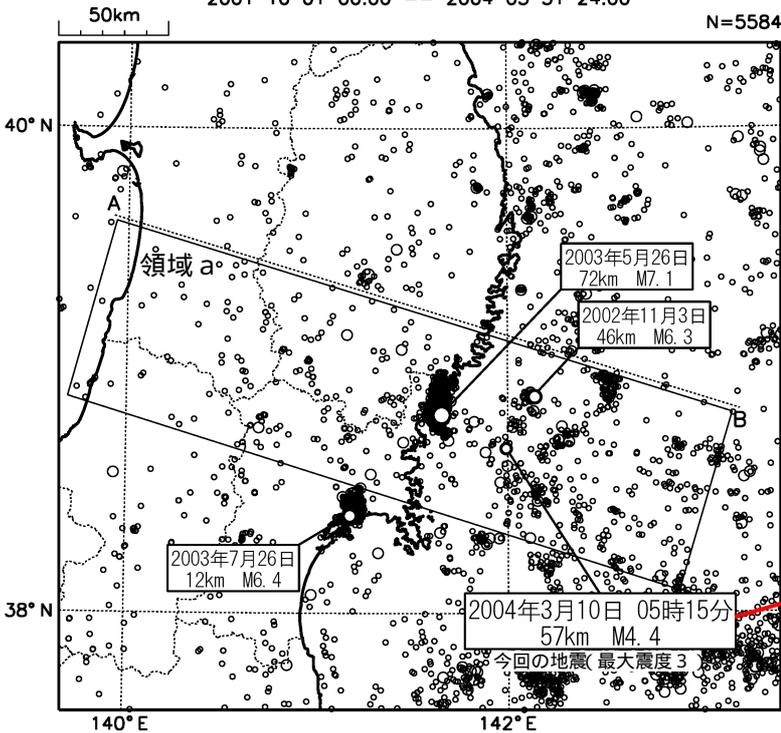


特に目立った活動は無かった。

[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]

# 3月10日 宮城県沖の地震

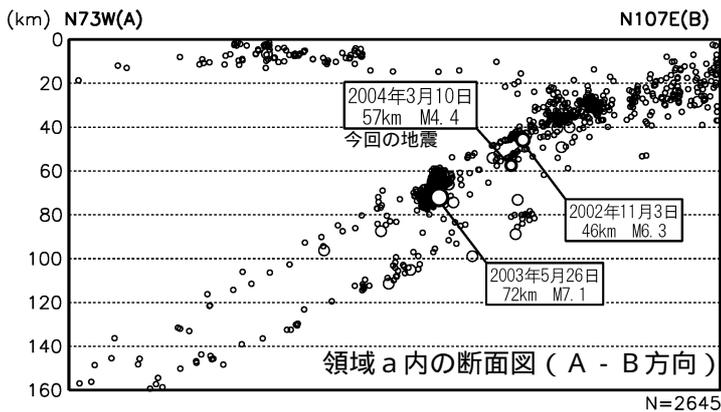
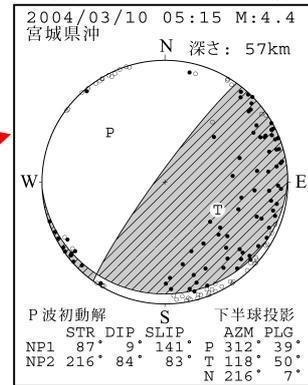
震央分布図 (2001年10月以降、M 2.0)  
2001 10 01 00:00 -- 2004 03 31 24:00



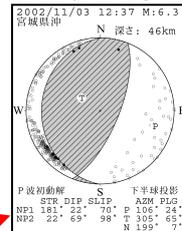
2004年3月10日05時15分に宮城県沖の深さ57 kmでM4.4 (最大震度3) の地震が発生した。発震機構は、太平洋プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ逆断層型で、二重地震面の上面 (プレート内部) で発生した地震である。

なお、今回の地震は2003年5月26日に宮城県沖で発生した地震 (M7.1) の東南東約30 kmに位置し、また、想定されている宮城県沖地震の震源域北約30 kmに位置している。

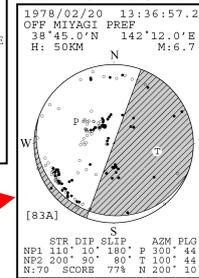
今回の地震の発震機構



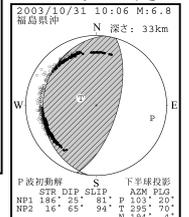
2002年11月3日



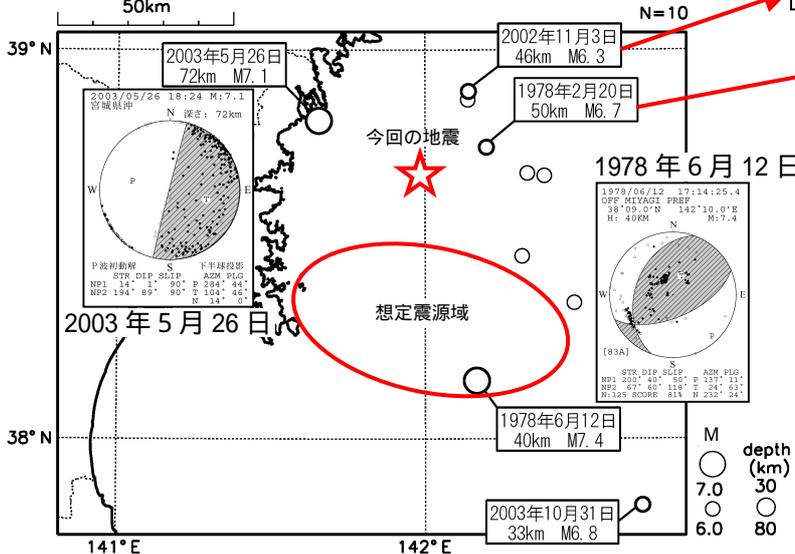
1978年2月20日



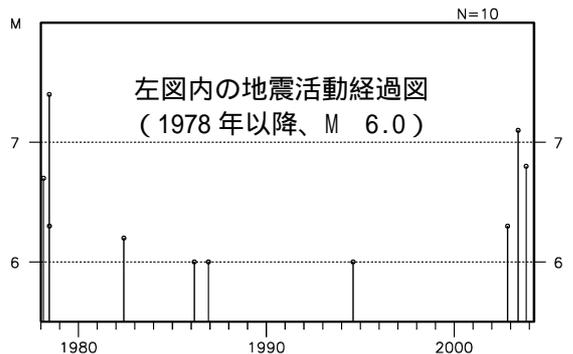
2003年10月31日



震央分布図 (1978年以降、M 6.0、深さ30~80 km)  
1978 01 01 00:00 -- 2004 03 31 24:00



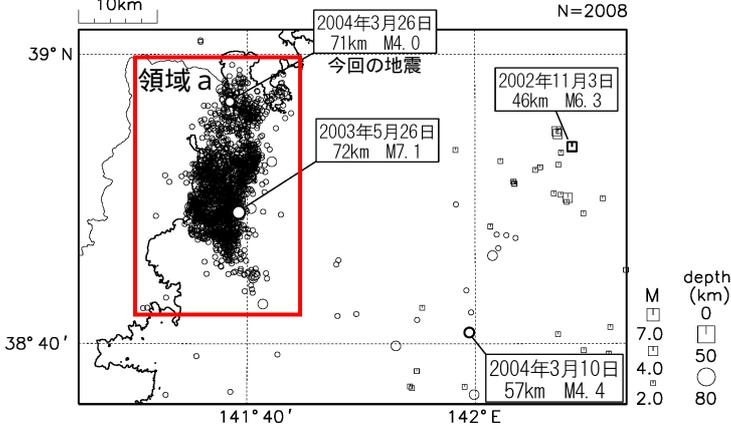
1978 01 01 00:00 -- 2004 03 31 24:00



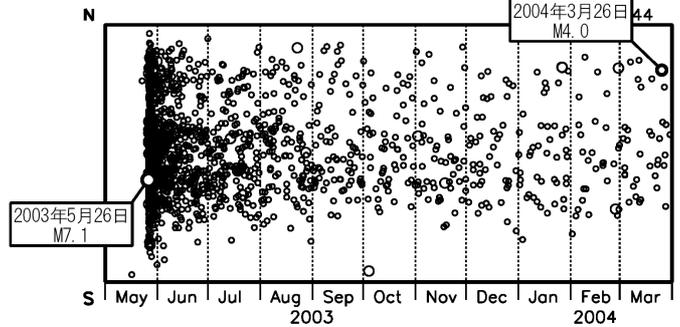
左図内の地震活動経過図  
(1978年以降、M 6.0)

# 宮城県沖の地震（2003年5月26日、M7.1）の余震活動

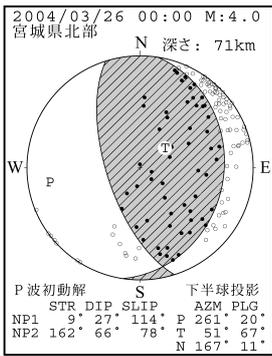
震央分布図（2002年11月以降、M 2.0）



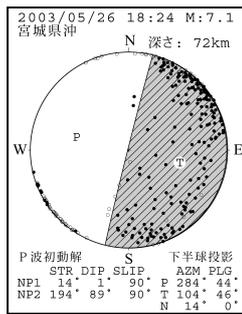
左図領域 a 内の時空間分布図  
(2003年5月以降、M 2.0)



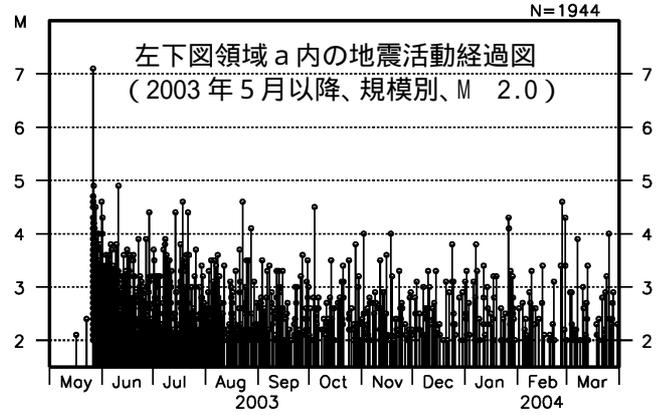
2004年3月26日



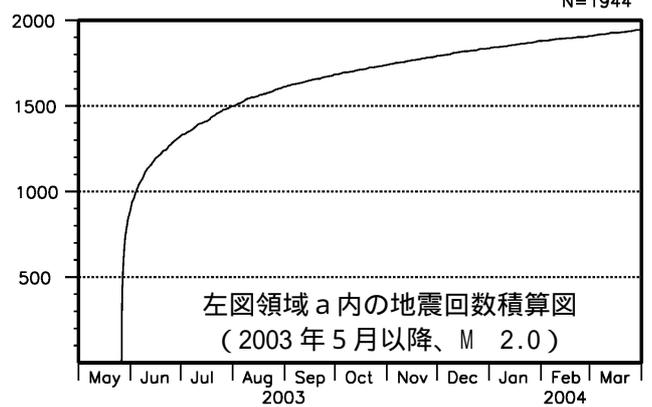
2003年5月26日



2003 05 01 00:00 -- 2004 03 31 24:00



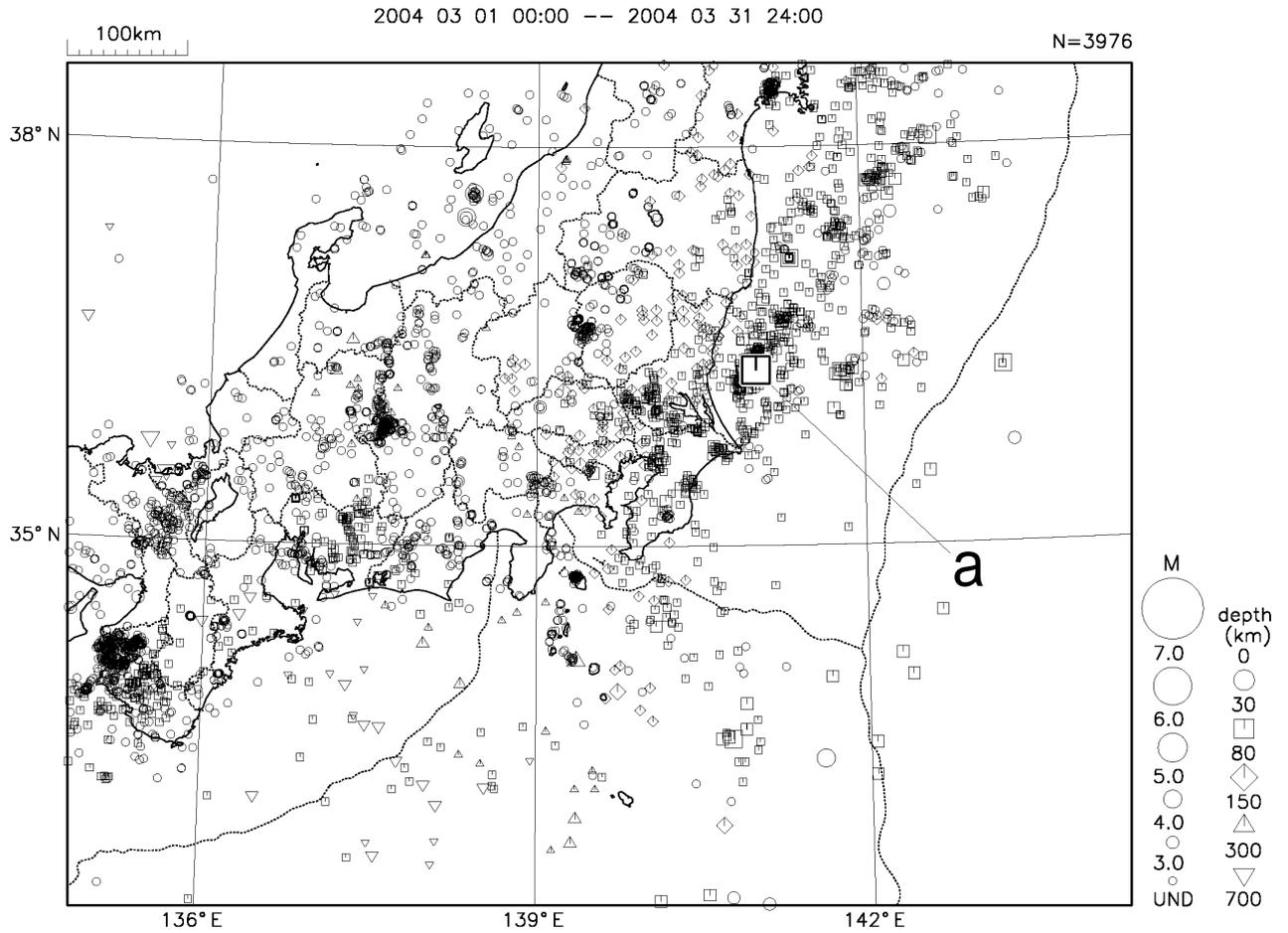
2003 05 01 00:00 -- 2004 03 31 24:00



2003年5月26日の宮城県沖の余震活動に特段の変化はなく、順調に減衰している。

なお、この余震域で3月中に発生したM4以上の地震は、3月26日のM4.0（最大震度2）のみである。

# 関東・中部地方



a) 3月11日に茨城県沖でM5.3 (最大震度4) の地震があった。

[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]

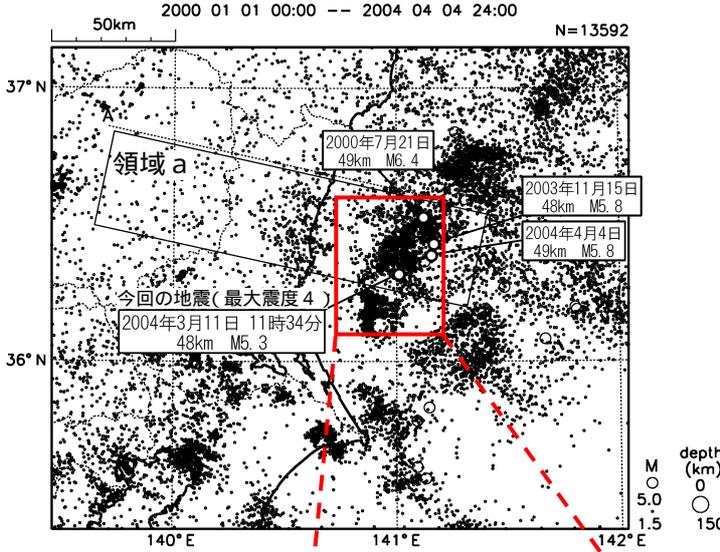
# 3月11日 茨城県沖の地震

3月11日に茨城県沖の深さ48kmでM5.3(最大震度4)の地震が発生した。この地震の発震機構は、この付近では典型的な東南東-西北西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、陸のプレートと太平洋プレートの境界の地震と考えられる。余震活動は5日後には収まった。

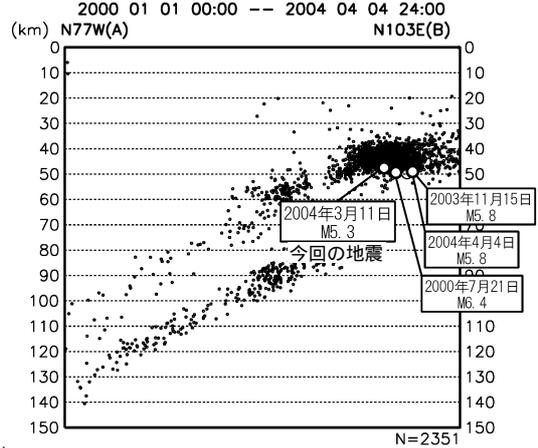
なお、この地域は、2000年7月21日にM6.4(最大震度5弱)、2003年11月15日にM5.8(最大震度4)の地震が発生するなど、普段から活動が活発な地域である。今回の地震はこの帯の比較的活動度の低い南端で発生しており、特に最近数ヶ月間は活動が低調であった。

また、この付近で、4月4日にM5.8(最大震度4)の地震が発生している。

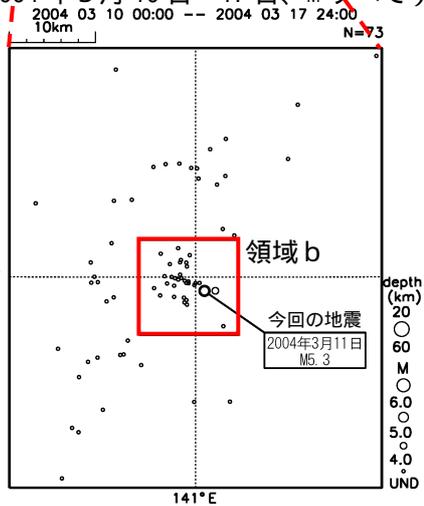
震央分布図(2000年以降、M 1.5)



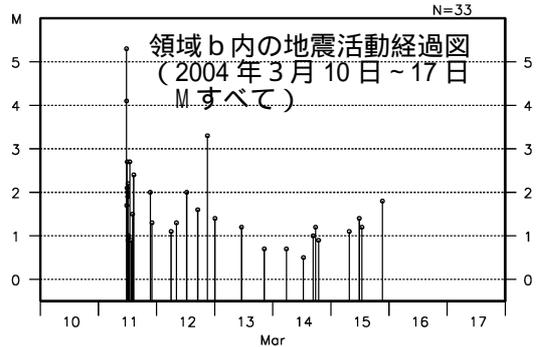
領域a内の断面図(A-B方向)



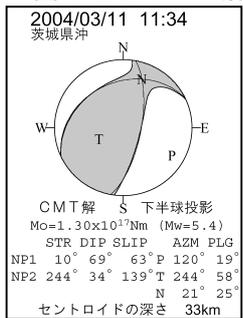
震央分布図(2004年3月10日~17日、Mすべて)



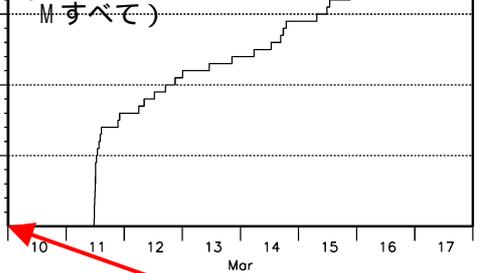
2004年3月10日00:00 -- 2004年3月17日24:00



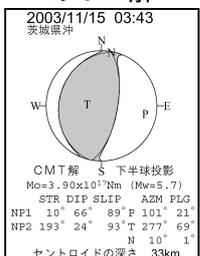
今回の地震のCMT解



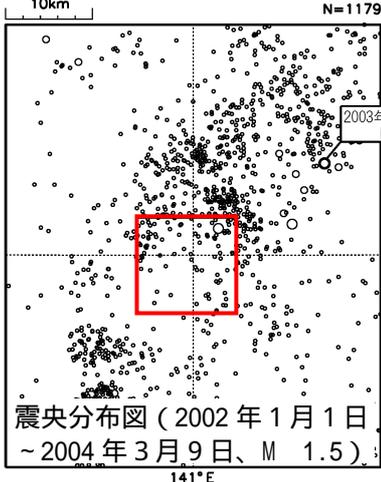
領域b内の地震回数積算図(2004年3月10日~17日、Mすべて)



2003年11月15日のCMT解

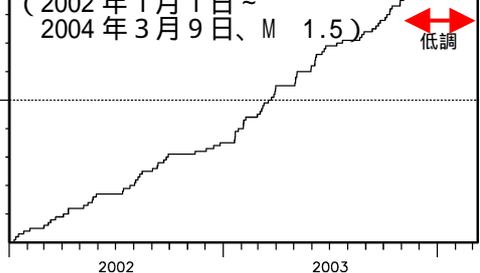


2002年1月1日00:00 -- 2004年3月9日24:00



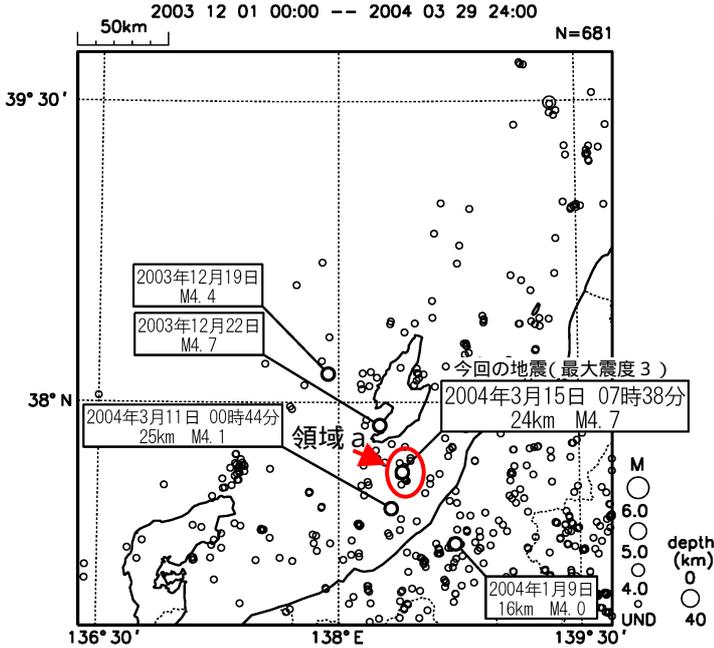
2002年1月1日00:00 -- 2004年3月9日24:00

領域b内の地震活動経過図(2002年1月1日~2004年3月9日、M 1.5)

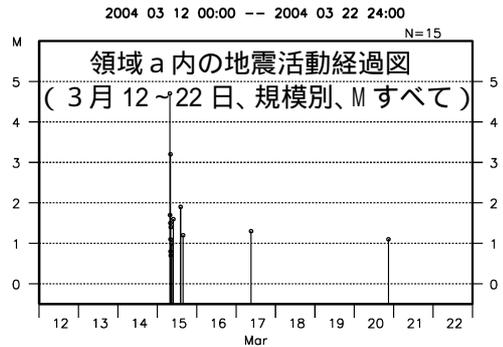


# 3月15日 新潟県沖の地震

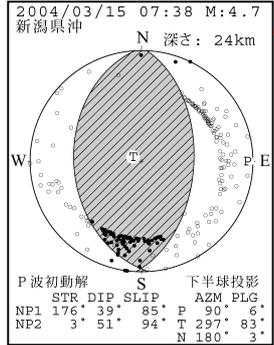
震央分布図 (2003年12月以降、Mすべて)



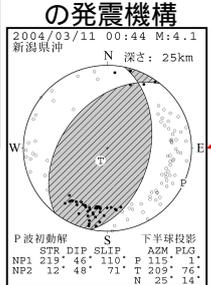
3月15日に新潟県沖の深さ24kmでM4.7(最大震度3)の地震が発生した。この地震の発震機構は、東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、圧力軸の方向はこの地域では典型的である。  
余震活動は1日間でほぼ収まった。  
この付近では、M4以上の地震は1年に1~2回程度発生している。



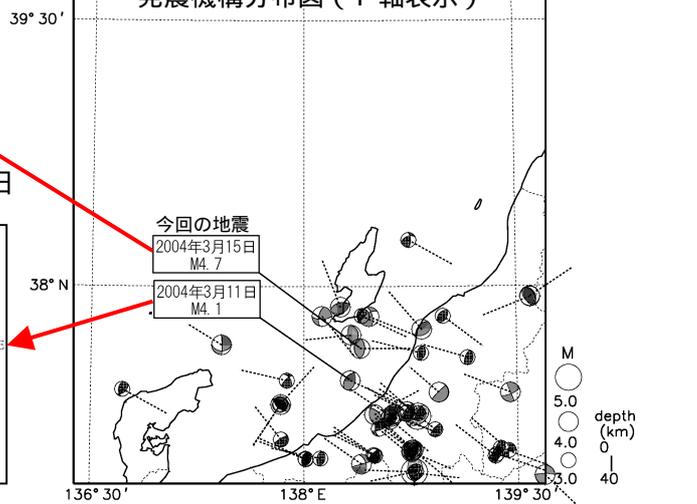
今回の地震の発震機構



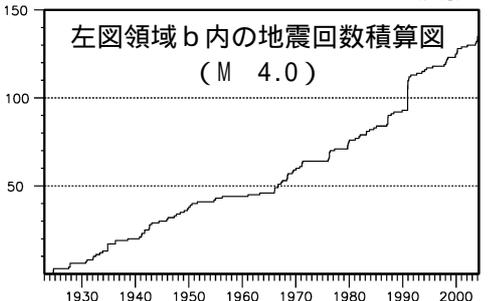
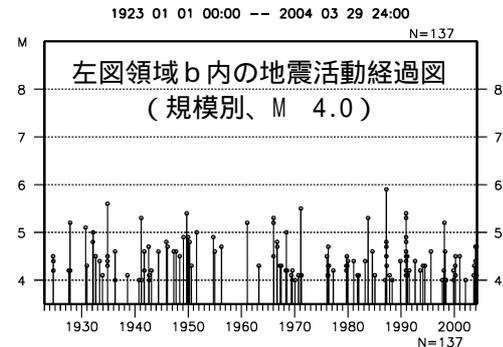
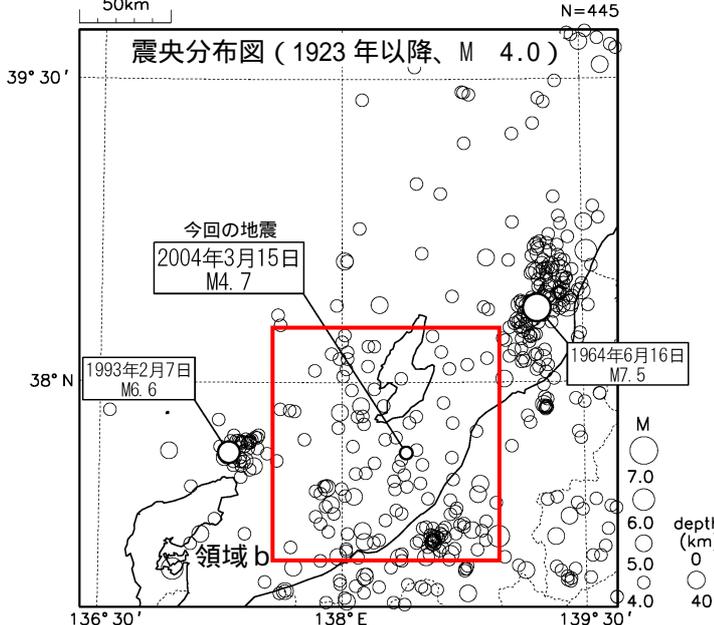
2004年3月11日の発震機構



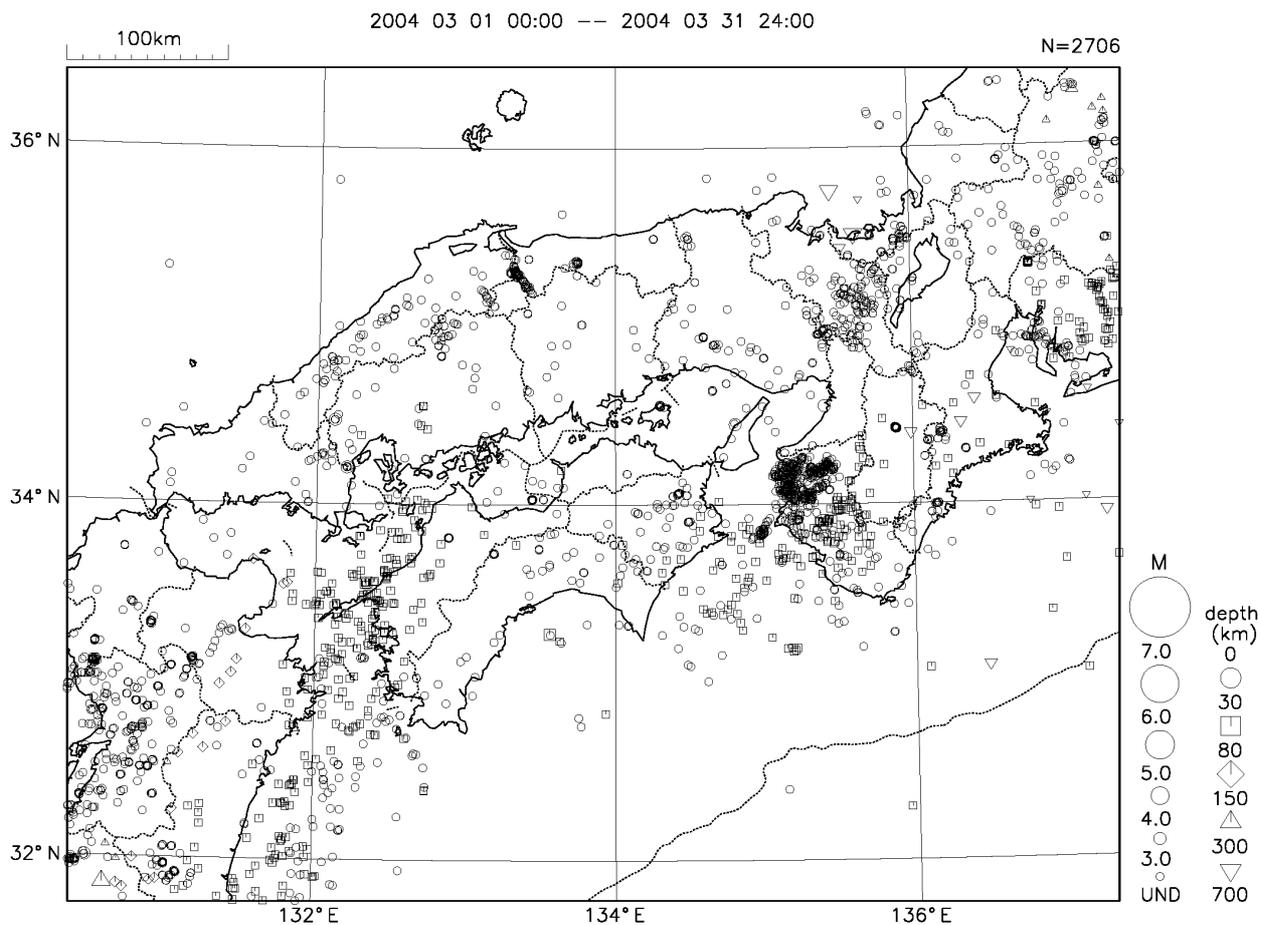
発震機構分布図 (P軸表示)



震央分布図 (1923年以降、M 4.0)



# 近畿・中国・四国地方



特に目立った活動は無かった。

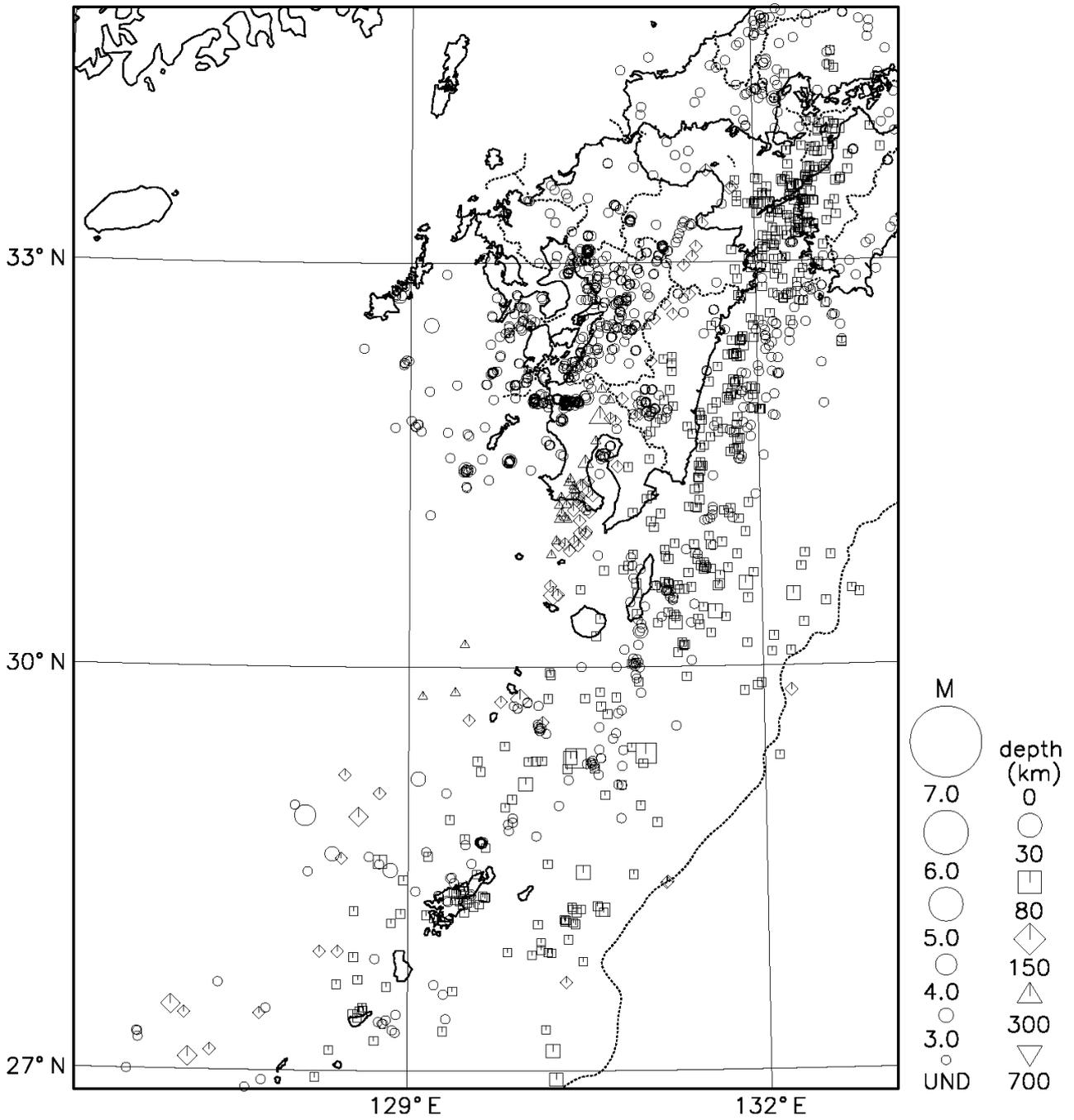
[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]

# 九州地方

2004 03 01 00:00 -- 2004 03 31 24:00

100km

N=1777

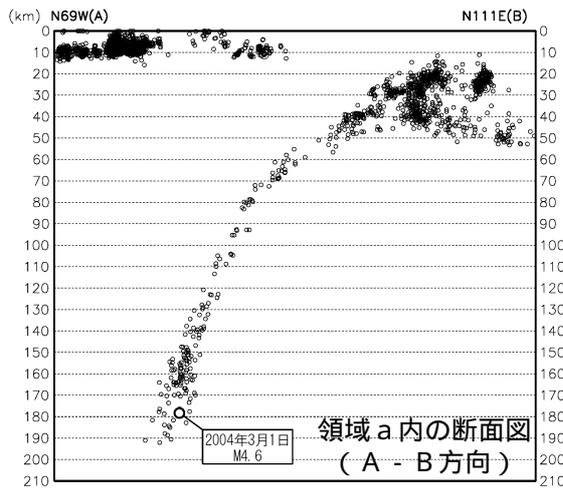
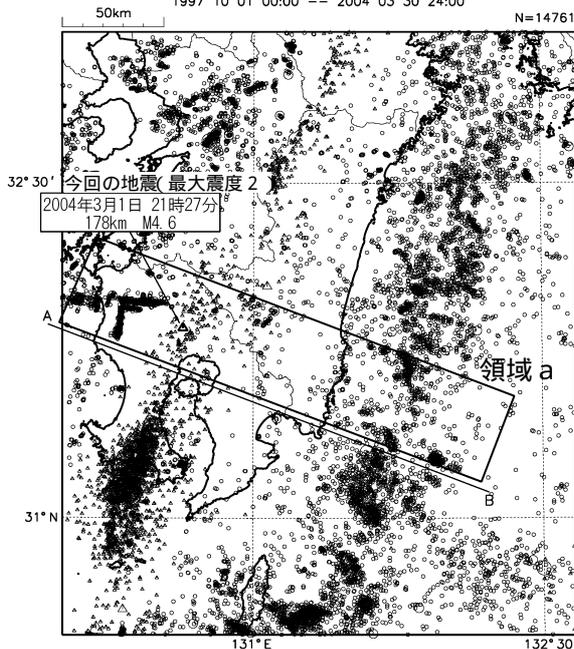


特に目立った活動は無かった。

[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]

# 3月1日 鹿児島県の稍深発地震

震央分布図(1997年10月以降、M 1.5)  
1997 10 01 00:00 -- 2004 03 30 24:00



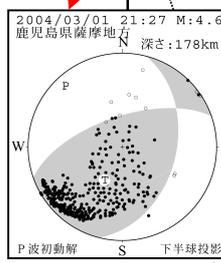
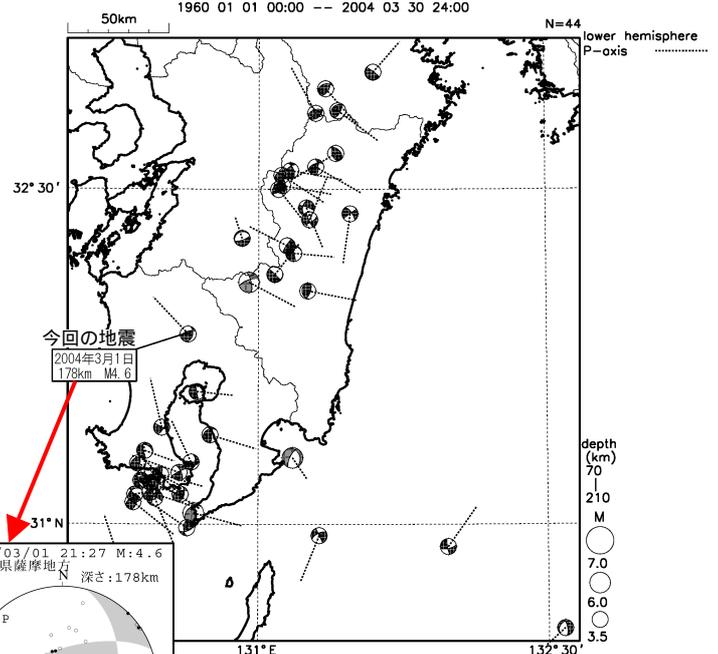
# 3月1日 鹿児島県の稍深発地震

2004年3月1日07時59分に鹿児島県の深さ178kmでM4.6(最大震度2)の地震が発生した。余震は観測されていない。

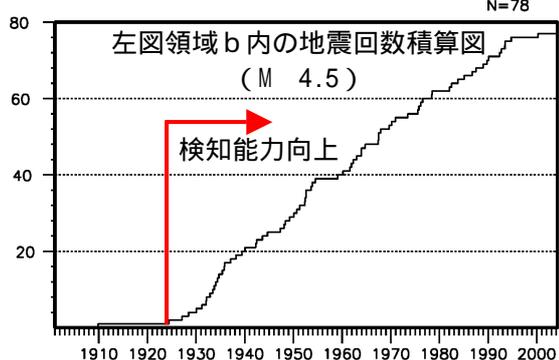
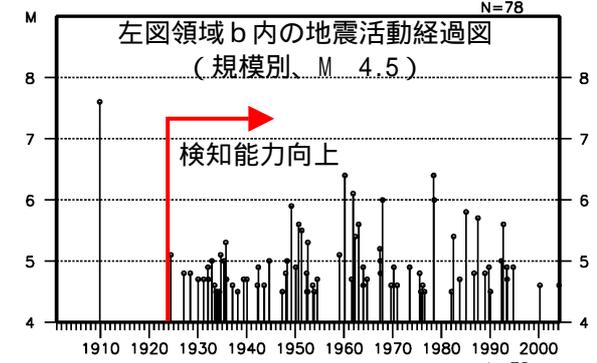
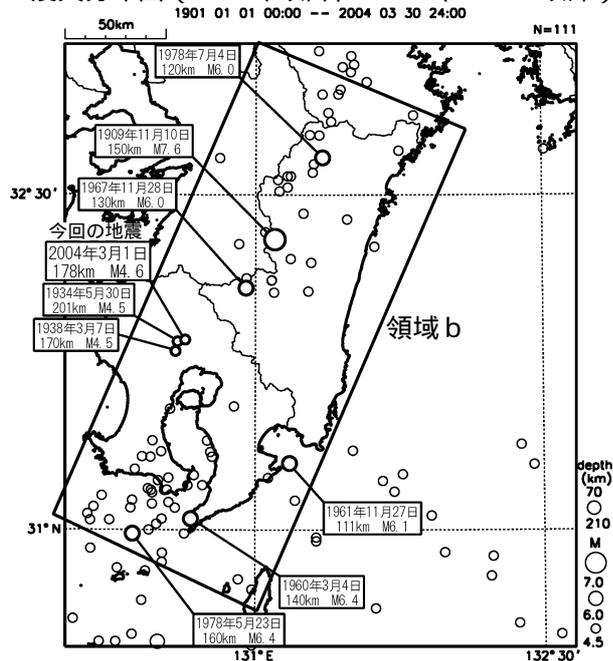
この地震はフィリピン海プレート内部で発生しており、発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ型である。

九州地方の稍深発地震では、1909年に宮崎県の深さ150kmでM7.6(最大震度5)の地震が発生し、死者2名の被害を伴った。

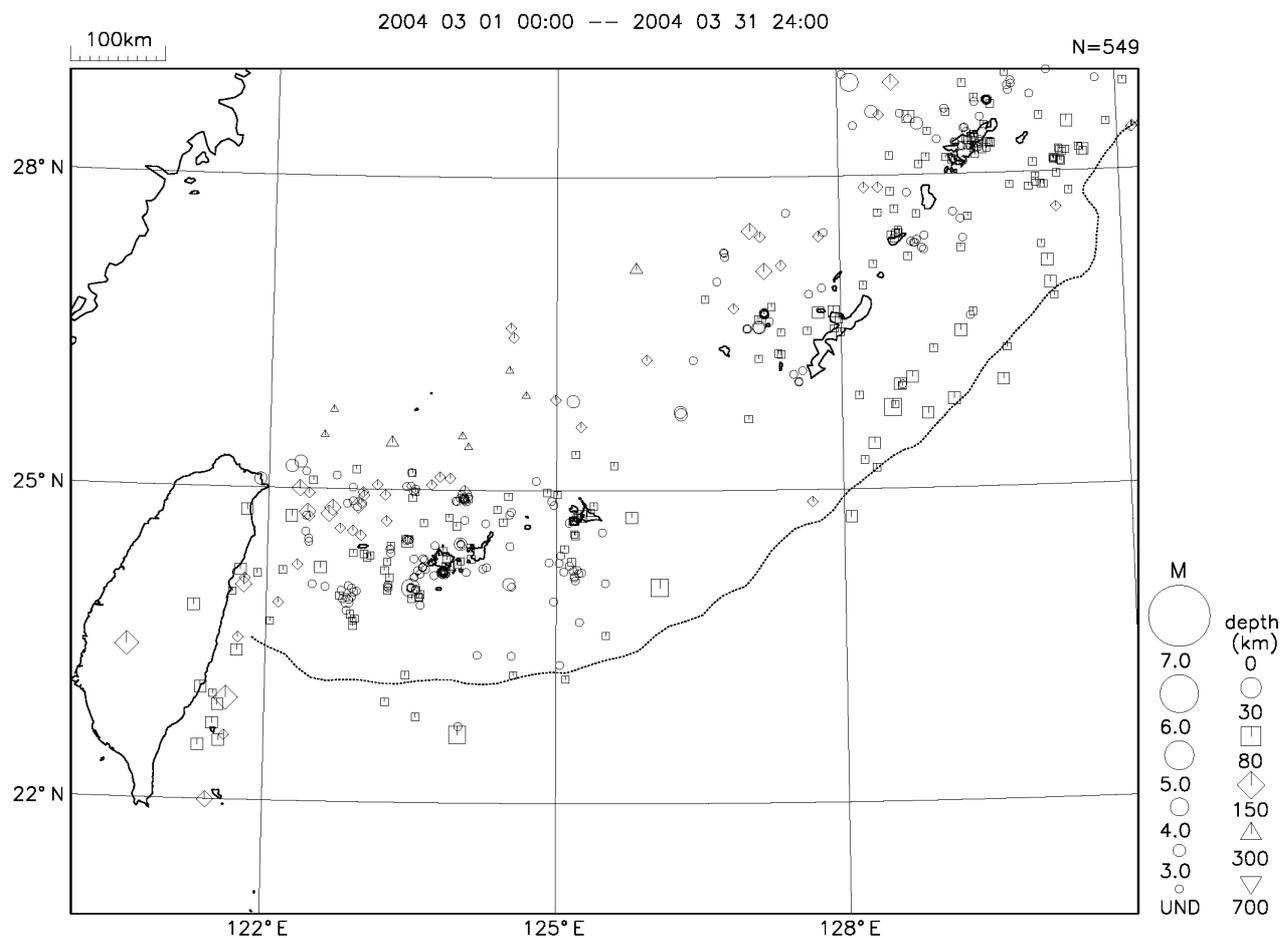
発震機構分布図(P軸表示、1960年以降、M 3.5、参考解を含む)  
1960 01 01 00:00 -- 2004 03 30 24:00



震央分布図(1909年以降、M 4.5、70 km以深)  
1901 01 01 00:00 -- 2004 03 30 24:00



# 沖縄地方



特に目立った活動は無かった。

[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]

## 東海地域の地震活動

[概況]

東海地域では、特に目立った地震活動はなかった。

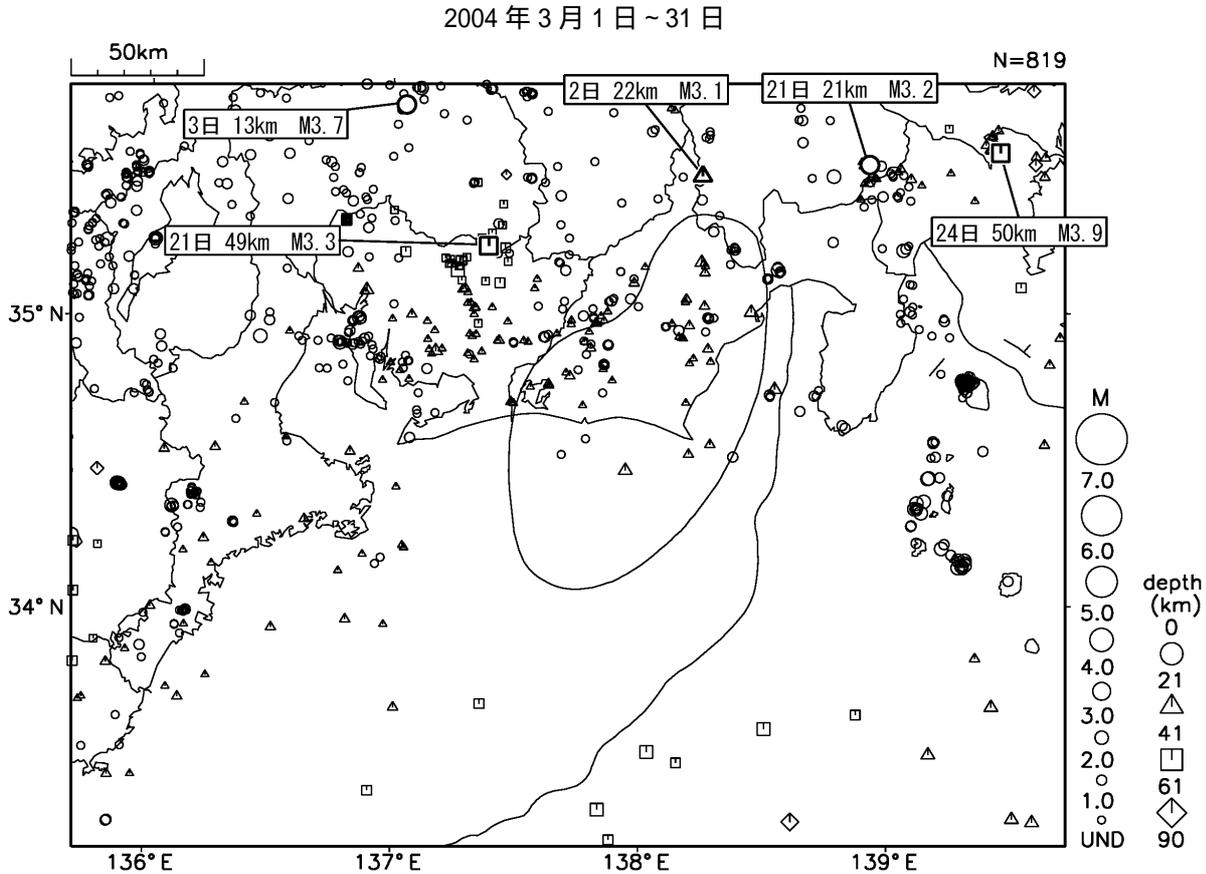


図 1 震央分布図

( 図中のなすび型領域は東海地震の想定震源域。M3.0 以上に吹き出し。)

### 地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

3 月 22 日に気象庁において第 217 回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した（図 2 ~ 5 ）。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はない。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。  
 全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖直下では通常より活動レベルの低い状態が続いています。その他の地域では、三河湾周辺で浅い地震の活動レベルがやや高いほかは、概ね平常レベルです。  
 プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる東海地域およびその周辺で見られる長期的な地殻変動は依然継続しています。

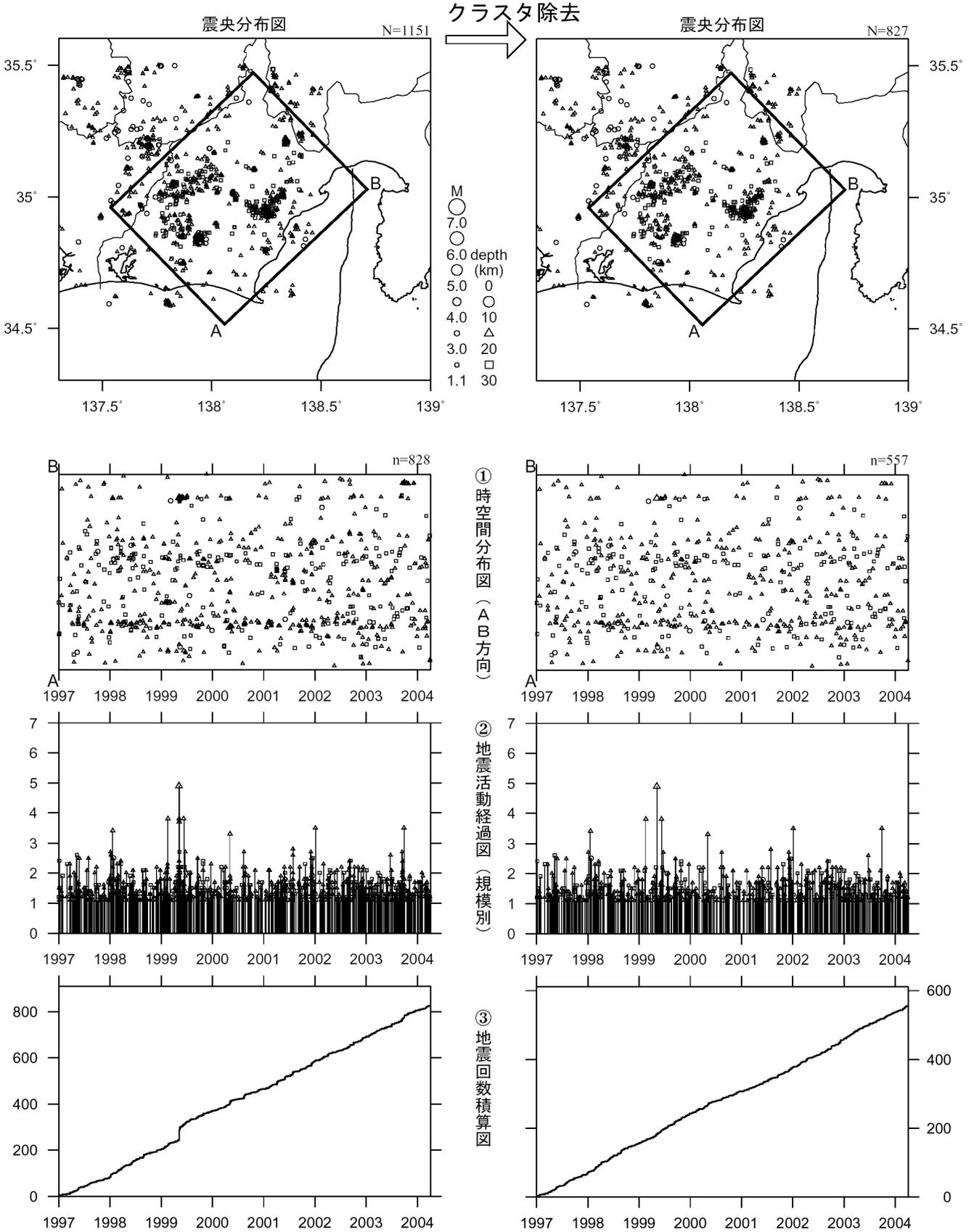
注) 上図 1 中の「想定震源域」と図 2、3 (p18~19) の「固着域」という用語

「固着域」とはプレート間が強く「くっついている」と考えられている領域。東海地震発生時には、「固着域」あるいはその周辺の一部からゆっくりした断層のずれ（前兆すべり）が始まり、最終的には「想定震源域」を含む広い範囲が破壊すると考えられている。

# 東海地震の想定震源域付近の地震活動

## 固着域（地殻内）

1997/1/1~2004/3/31 M $\geq$ 1.1



\* ①②③は震央分布図中の矩形内の活動

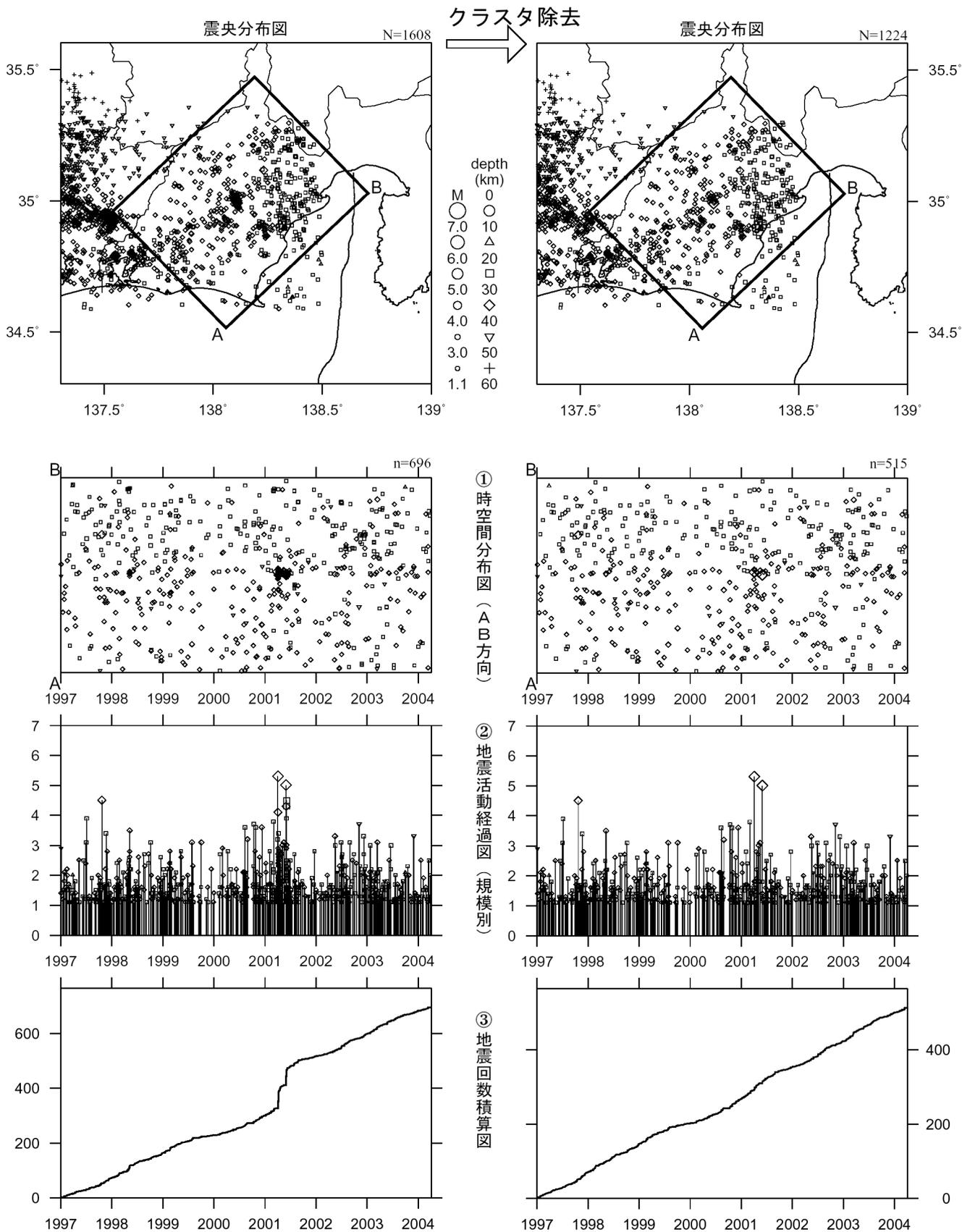
\* 吹き出しは最近60日以内、M $\geq$ 3.0

図2 静岡県中西部（固着域周辺）における地殻内の地震活動

地殻内では目立った活動はない。

固着域 (フィリピン海プレート内)

1997/ 1/ 1~2004/ 3/ 31 M ≥ 1.1



\* ①②③は震央分布図中の矩形内の活動

\* 吹き出しは最近60日以内、M ≥ 3.0

図3 静岡県中西部(固着域周辺)におけるフィリピン海プレート内の地震活動  
 フィリピン海プレート内では目立った活動はない。

# 浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2004/ 3/ 31 M ≥ 1.1 \* クラスタ除去したデータ

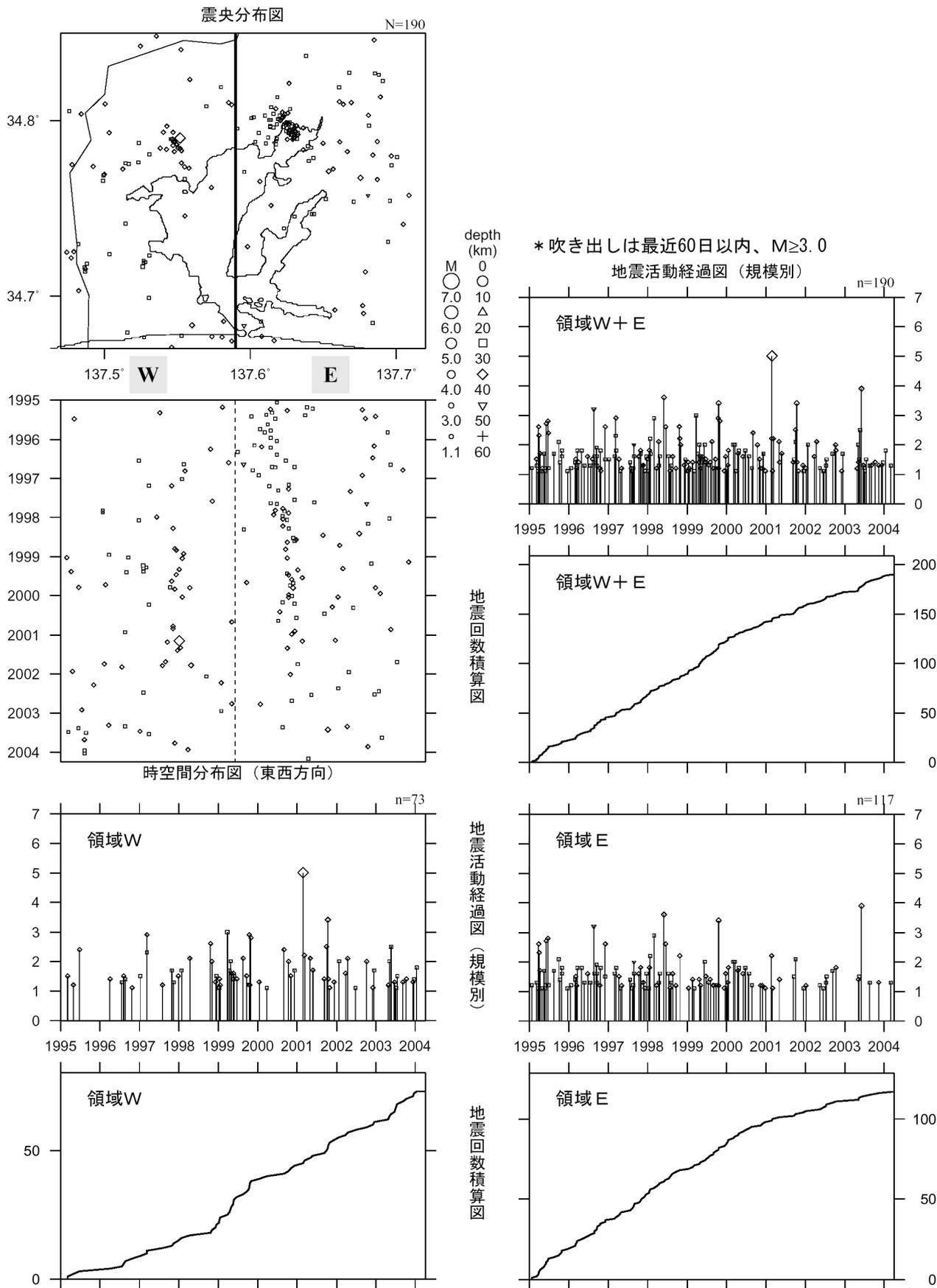


図4 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動  
東側領域では2000年終わり頃からの活動の低下が継続している。

# 愛知県（地殻内） 1997/ 1/ 1~2004/ 3/ 31 M ≥ 1.1

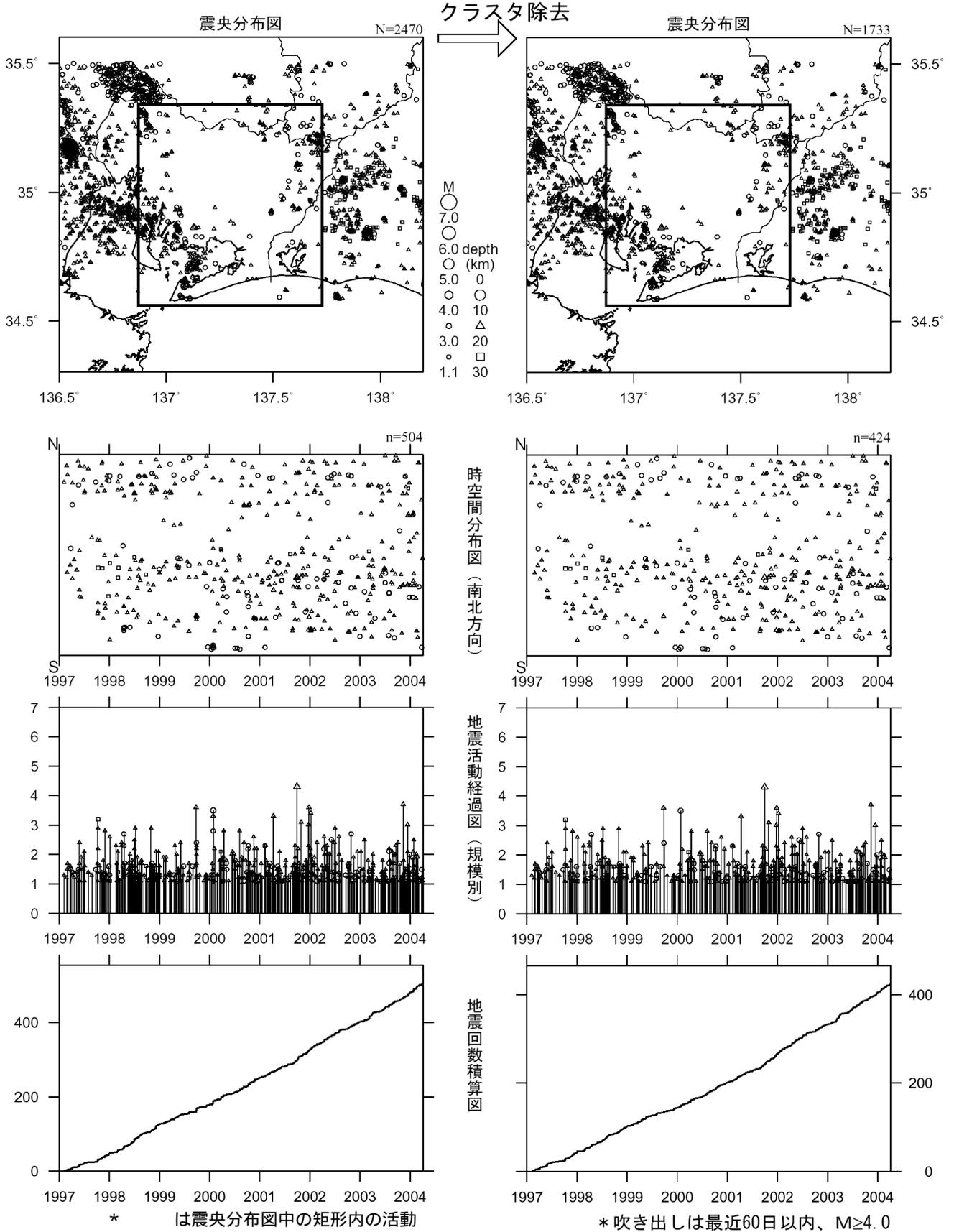


図5 愛知県における地殻内の地震活動

愛知県の地殻内では、三河湾周辺の活動がやや活発である。

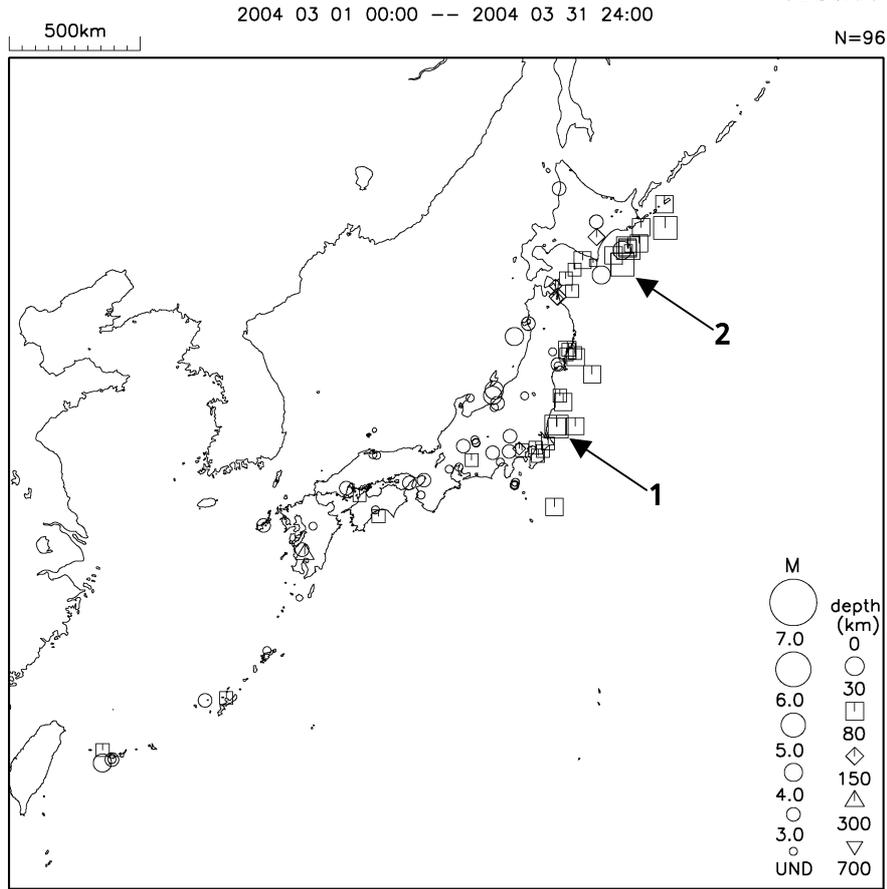


図1 震度1以上が観測された地震  
(図中の番号は、表のNoに対応する地震)

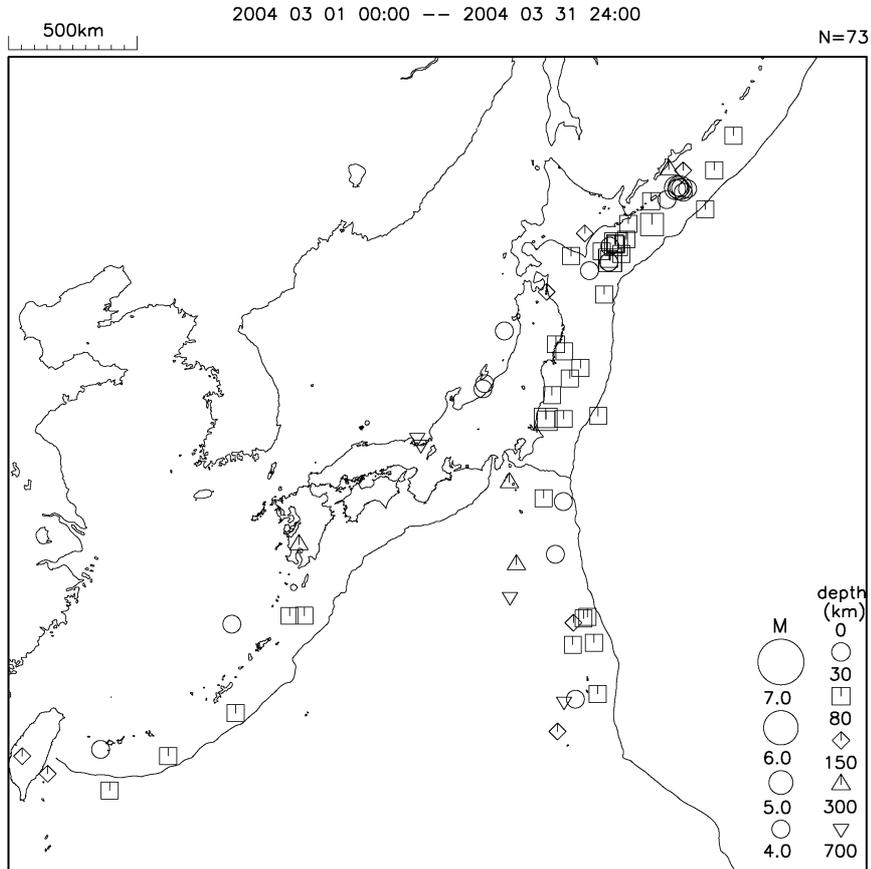


図2 M4.0以上の地震

# 別紙 1 - 参考 2

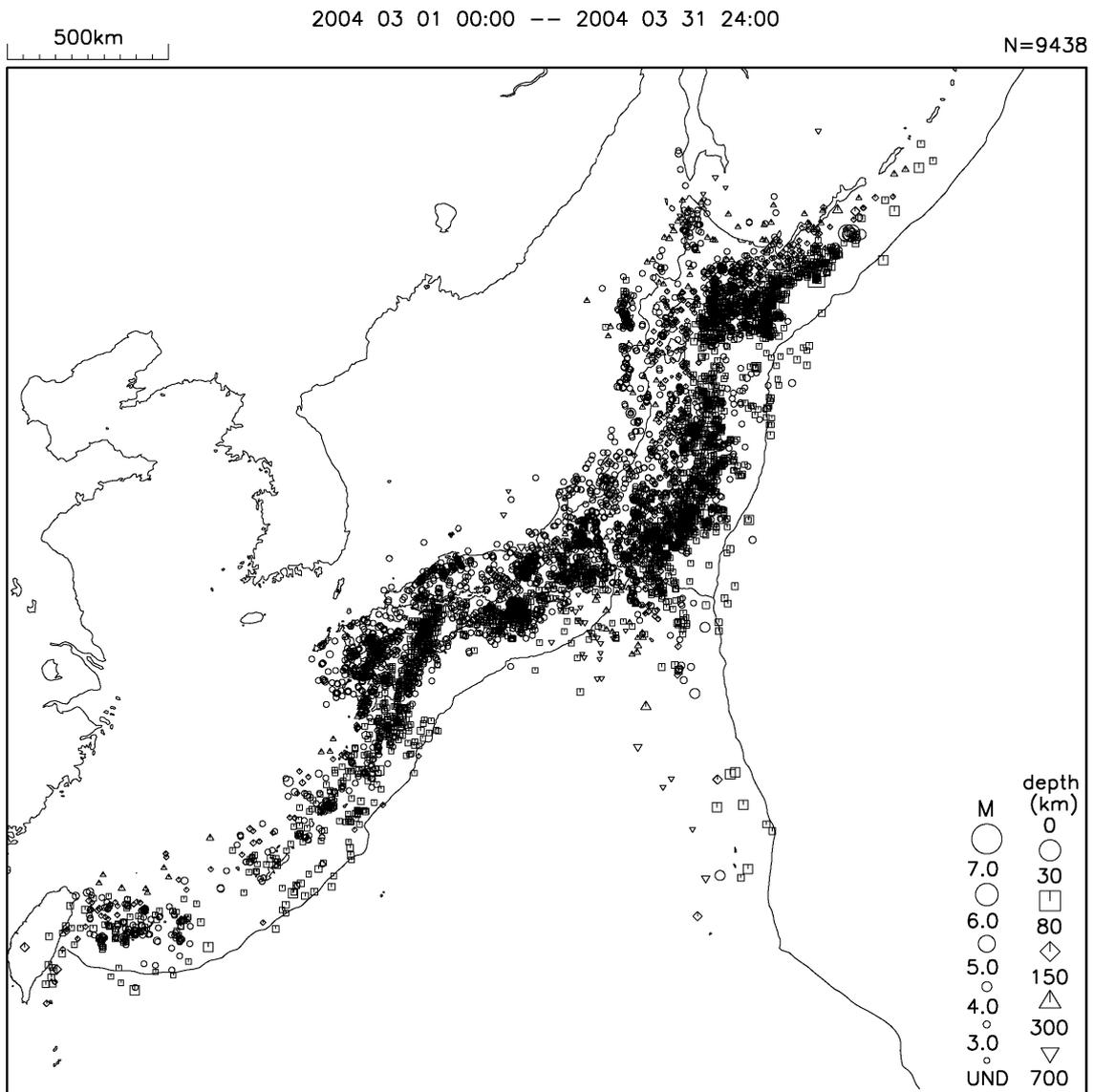


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2004年3月の地震の震央分布

表 1  
過去 1 年間の最大震度別の月別地震回数  
<平成15年(2003年)3月~平成16年(2004年)3月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
3月	58	22	10	2						92	
4月	57	29	4	4						94	新島・神津島近海(12回*)
5月	171	58	22	5			1			257	26日:宮城県沖(震度6弱1回、震度1~4:150回)、長野県南部(24回*)
6月	112	40	7	2						161	宮城県沖(震度1~3:65回)
7月	304	147	58	17	2		2	1		531	宮城県北部(震度6強1回、震度6弱2回、震度1~5弱:414回)、宮城県沖(震度1~3:38回)
8月	127	67	16	6						216	宮城県北部(震度4:3回、震度3:10回、震度2:39回、震度1:63回)、宮城県沖(震度1~3:23回)
9月	96	41	18	7			2			164	十勝沖(震度6弱:2回、震度4:5回、震度3:13回、震度2:18回、震度1:25回)、宮城県北部(震度4:1回、震度3:3回、震度2:3回、震度1:14回)、宮城県沖(震度1:14回)
10月	104	47	14	7						172	十勝沖(震度4:2回、震度3:6回、震度2:12回、震度1:23回)、宮城県北部(震度4:1回、震度2:2回、震度1:13回)
11月	74	35	9	6						124	十勝沖(震度4:1回、震度3:1回、震度2:3回、震度1:6回)、宮城県北部(震度3:1回、震度2:4回、震度1:6回)、宮城県沖(震度2:4回、震度1:6回)
12月	108	39	11	7						165	十勝沖(震度4:1回、震度3:3回、震度2:2回、震度1:5回)、宮城県北部(震度3:2回、震度2:1回、震度1:7回)、新島・神津島近海(震度4:3回、震度3:2回、震度2:8回、震度1:25回)
2004年1月	65	23	8	3						99	宮城県沖(震度3:2回、震度2:2回、震度1:7回)
2月	72	20	6	1						99	
3月	58	32	5	1						96	
2004年計	195	75	19	5						294	
過去1年計	1348	578	178	66	2		5	1		2178	(平成15年4月~平成16年3月)

注) 「記事」欄の「\*」は関連の地震で震度1以上が観測された地震の回数。「記事」欄には主に震度5弱以上を観測した地震、または震度1以上が10回以上観測された地震活動について記載した。

地方公共団体の震度計による震度の発表開始年月日。

平成9(1997)年11月10日 秋田県、埼玉県、神奈川県(横浜市)、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、

岡山県、山口県

平成10(1998)年6月15日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県

10月15日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、

宮崎県、鹿児島県

平成11(1999)年7月21日 東京都、長野県

平成12(2000)年1月12日 栃木県、千葉県、岐阜県

3月28日 滋賀県

7月18日 富山県、香川県、大分県

平成13(2001)年3月22日 佐賀県

5月10日 山梨県、神奈川県(川崎市)

7月19日 高知県

12月12日 福島県

平成14(2002)年3月20日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県

7月29日 北海道、長崎県

平成15(2003)年3月10日 沖縄県

表 2

日本及びその周辺におけるマグニチュード (M) 別の月別地震回数  
 <平成15年(2003年)3月～平成16年(2004年)3月>

	M3.0 ～ M3.9	M4.0 ～ M4.9	M5.0 ～ M5.9	M6.0 ～ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2003年3月	275	59	8			342	67	
4月	244	74	7	2		327	83	8日:茨城県沖(M6.0) 29日:北海道東方沖(M6.0)
5月	421	82	4	0	1	508	87	26日:宮城県沖(M7.1) 宮城県沖の余震活動(M3.0～3.9:158回、M4.0～4.9:29回)
6月	336	65	13	2		416	80	9日:台湾付近(M6.3) 10日:台湾付近(M6.3) 宮城県沖の余震活動(M3.0～3.9:65回、M4.0～4.9:4回)
7月	401	75	12	1	1	490	89	26日:宮城県北部(M6.4) 27日:日本海北部(M7.1) 宮城県北部の余震活動(M3.0～3.9:83回、M4.0～4.9:11回、M5.0～5.9:4回、M6.0～6.9:1回) 宮城県沖の余震活動(M3.0～3.9:46回、M4.0～4.9:3回)
8月	301	57	11			369	68	宮城県北部の余震活動(M3.0～3.9:21回、M4.0～4.9:3回) 宮城県沖の余震活動(M3.0～3.9:22回、M4.0～4.9:2回)
9月	554	133	33	5	2	727	173	26日:平成15年(2003年)十勝沖地震(M8.0) 十勝沖地震の余震活動(M3.0～3.9:64回、M4.0～4.9:68回、M5.0～5.9:23回、M6.0～6.9:3回、M7.0～7.9:1回、M8以上:1回) 宮城県北部の余震活動(M3.0～3.9:6回) 宮城県沖の余震活動(M3.0～3.9:15回) 28日:奄美大島近海(M6.0)
10月	514	147	17	4		682	168	十勝沖地震の余震活動(M3.0～3.9:105回、M4.0～4.9:72回、M5.0～5.9:12回、M6.0～6.9:2回) 8日:十勝沖(M6.4)、11日:十勝沖(M6.1) 29日:北海道東方沖(M6.0) 31日:福島県沖(M6.8)
11月	405	106	14	3		528	123	十勝沖地震の余震活動(M4.0～4.9:17回、M5.0～5.9:3回)、福島県沖の余震活動(M4.0～4.9:23回、M5.0～5.9:6回、M6.0～6.9:1回) 12日:父島近海(M6.4) 12日:東海道沖(M6.5)
12月	383	93	17	3		496	113	10日:台湾付近(M6.6)、24日:東シナ海(M6.0)、29日:釧路沖(M6.0)
2004年1月	299	80	13			392	93	
2月	252	57	8			317	65	
3月	279	66	7			352	73	
2004年計	830	203	28			1061	231	(平成16年1月～平成16年3月)
過去1年計	4389	1035	156	20	4	5604	1215	(平成15年4月～平成16年3月)

注)日本及びその周辺:北緯20～49度、東経120～153度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

# 世界の主な地震

3月に世界で発生したマグニチュード(M)6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

2004 03 01 00:00 --- 2004 03 31 24:00

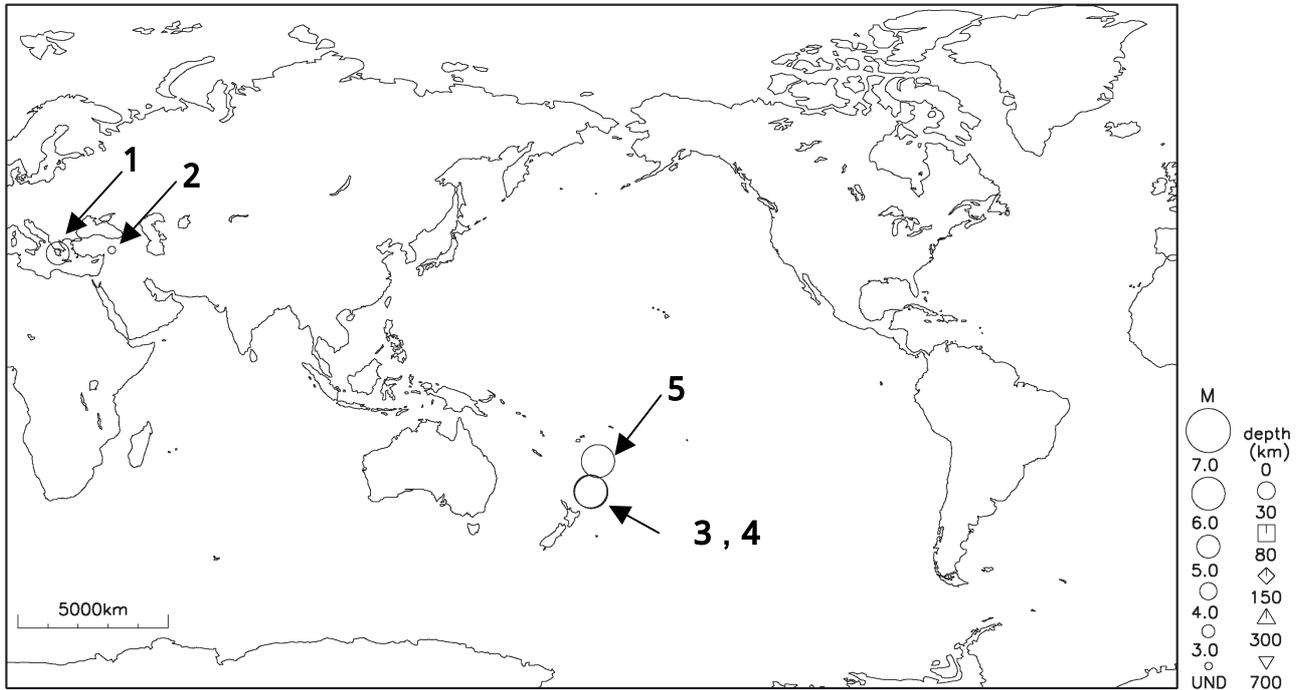


図1 2004年3月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布  
 <震源要素は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による>

\* : 数字は、表1の番号に対応する。  
 \*\* : マグニチュードはmb(実体波マグニチュード)、Ms(表面波マグニチュード)のいずれか大きい値を用いて表示している。

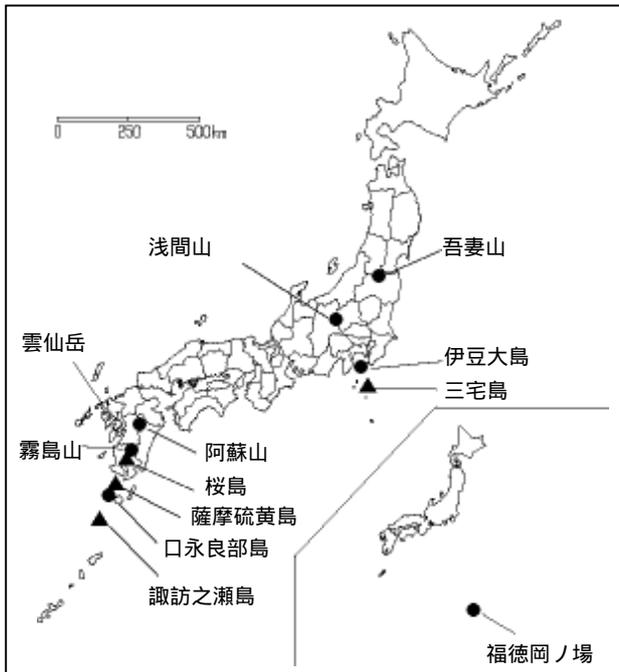
表1 2004年3月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月日時分	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	被害状況
1	03月01日09時35分	N37° 08.0'E	22° 08.0	14	5.5		5.6	ギリシャ南部	建物被害等
2	03月02日08時55分	N38° 03.4'E	38° 16.6	5*				トルコ	死者6名以上(M3.8:トルコ、ボアジチ大学による)
3	03月07日20時19分	S32° 24.8'W	178° 04.5	10*	5.3	6.2		ケルマデック諸島南方沖	
4	03月10日07時56分	S32° 13.3'W	178° 20.5	19	5.9	6.4	6.3	ケルマデック諸島南方沖	
5	03月19日05時04分	S23° 45.7'W	175° 59.9	24	5.8	6.1	6.2	トンガ諸島付近	

- ・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による(2004年4月6日現在)。ただし、日本付近で発生した地震については震源及びマグニチュード(Ms)の欄に括弧を付して記載)は気象庁、被害状況は総務省消防庁による。
- ・時分は震源時で日本時間[日本時間=協定世界時+9時間]である。
- ・MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。
- ・USGSによれば、震源の深さ「33#」は、震源計算による深さの精度が得られないため、「33km」に固定していることを示す。また、震源の深さに「\*」が付いているのは、震源計算で求めた値とは異なり、地球物理学的見地からの推定値であることを示す。

## 平成 16 年 3 月の主な火山活動

記事を掲載した火山



過去 1 年間に記事を掲載した火山

火 山 名	平成15年（2003年）												平成16年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
浅間山	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
伊豆大島	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
阿蘇山	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
雲仙岳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
桜島	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
雌阿寒岳															
十勝岳															
樽前山															
吾妻山															
富士山															
箱根山															
伊豆東部火山群															
三宅島															
伊豆鳥島															
噴火浅根															
福徳岡ノ場															
霧島山															
薩摩硫黄島															
口永良部島															
諏訪之瀬島															

【記号の意味： 噴火した火山、 観測データ等に变化のあった火山、 その他記事を掲載した火山。  
浅間山、伊豆大島、阿蘇山、雲仙岳、桜島の丸付き数字は期間中の火山活動度レベル。  
以下、火山名に下線を引いた火山のみ、説明資料（火山活動解説資料）を配布する。】

吾妻山 微小な地震の回数は依然としてやや多い状態で続いているが、1月を最多に減少してきている。

浅間山 [火山活動度レベルは2（やや活発な火山活動）]  
地震の発生回数がやや多く、微動も時々発生した。火口底には依然高温部が見られるが、全体として温度は低下傾向にある。

伊豆大島 [火山活動度レベルは1（静穏な火山活動）]  
2日に、一時的に地震が多発した。また地震が活発に起こるのに合わせて体積歪(ひずみ)計で伸びの変化が観測された。噴煙活動等その他のデータには変化はなかった。

三宅島 5日から13日にかけて地震が多発した。28日に火口カメラ設置工事の際に山頂付近で微弱的な降灰を確認した。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は長期的には減少傾向にあるが、日量3千~1万トン程度で概ね横ばい傾向となっている。

あくとくあかのば  
福徳岡ノ場 8日に変色水が確認されたが、11日には確認されなかった。（海上保安庁第三管区海上保安本部の調査による）

阿蘇山 [火山活動度レベルは2（やや活発な火山活動）]  
中岳第一火口の火山活動は依然やや活発で、規模の大きい土砂噴出は発生していないものの、小規模な土砂噴出は継続し、湯だまり温度が依然高い状態にある。孤立型微動の発生回数は減少したが、連続的な火山性微動が発生した。

雲仙岳 [火山活動度レベルは1（静穏な火山活動）]

霧島山 御鉢付近で 26 日に火山性微動を観測した。その直後から御鉢火口の噴気活動が活発となり、その後もやや活発な状態が続いた。28 日に御鉢付近の地震が一時多発した。

桜島 [火山活動度レベルは 2 (比較的静穏な噴火活動)]

従来からの南岳山頂の噴火が継続したが、月間の噴火回数は 2 回で、桜島としては比較的静穏な噴火活動であった。

薩摩硫黄島 5 日、19～29 日に噴火し、時々集落で降灰を確認した。22～27 日に振幅のやや大きな連続微動が発生した。

口永良部島 月の前半は地震が引き続きやや多い状態であった。下旬に微動が時折発生した。

諏訪之瀬島 25 日に小規模な山頂噴火があり集落で降灰を確認した。

### 平成 16 年 3 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類と号数	発表日時	概要
伊豆大島	火山観測情報第 3 号	2 日 08 時 30 分	2日05時過ぎから、島内北西部で地震が多発。
	火山観測情報第 4 号	2 日 15 時 30 分	地震活動は収まった。
三宅島	火山観測情報第 118 号 (1 日 2 回発表)	1 日 16 時 30 分	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。
	火山観測情報第 179 号	31 日 16 時 30 分	
阿蘇山	火山観測情報第 18 号	5 日 14 時 00 分	火山活動が引き続きやや活発(孤立型微動がやや多い状態、湯だまり量約 4 割、規模の小さい土砂噴出が継続)。
	火山観測情報第 19 号	12 日 11 時 00 分	火山活動が引き続きやや活発(孤立型微動がやや多い状態)。
	火山観測情報第 20 号	19 日 11 時 10 分	火山活動が引き続きやや活発(孤立型微動やや減少、連続微動時々発生、湯だまり量約 3 割に減少、規模の小さい土砂噴出が継続)。
	火山観測情報第 21 号	26 日 11 時 10 分	火山活動が引き続きやや活発(孤立型微動やや減少、連続微動時々発生、湯だまり量約 3 割、規模の小さい土砂噴出が継続)。
霧島山	火山観測情報第 15 号	19 日 15 時 00 分	御鉢の噴気活動は消長を繰り返している。地震・微動活動低調。
	火山観測情報第 16 号	26 日 22 時 00 分	御鉢付近で火山性微動発生。御鉢の噴気が火口縁上 500m 以上上がる。
	火山観測情報第 17 号	27 日 10 時 00 分	御鉢では噴気活動やや活発。
	火山観測情報第 18 号	29 日 10 時 00 分	御鉢ではやや活発な火山活動が継続。
薩摩硫黄島	火山観測情報第 1 号	22 日 10 時 40 分	火山性微動の振幅がやや増大。21 日に集落で少量の降灰。
	火山観測情報第 2 号	26 日 11 時 10 分	火山性微動の振幅がやや増大。21 日以降、集落で時々降灰。
口永良部島	火山観測情報第 14 号	1 日 15 時 00 分	地震・微動活動は消長を繰り返している。
	火山観測情報第 15 号	5 日 14 時 00 分	
	火山観測情報第 16 号	12 日 15 時 00 分	火山性地震の発生が少なくなっている。
	火山観測情報第 17 号	19 日 15 時 00 分	
	火山観測情報第 18 号	26 日 11 時 10 分	